3.2 自然的状況

(1) 気象、大気質、騒音、振動、悪臭の状況

1) 気象

① 降水量・気温・日照時間

計画地の最寄りの気象観測所は、図 3.2-1 に示すとおりであり、降水量については鴻巣地域気象観測所、気温、日照時間については久喜地域気象観測所である。令和 7 年の降水量、気温及び日照時間については表 3.2-1 に、過去 10 年間における降水量、気温及び日照時間の推移については表 3.2-2 に示すとおりである。

令和 7 年の年間降水量は 961.5㎜、年平均気温は 16.4℃、最高気温は 39.9℃、最低気温は-5.5℃、年間の日照時間は 2,288.4 時間を記録している。また、過去 10 年間の年間降水量は 936.0～1,392.5㎜、年平均気温は 14.8～16.6℃、年間の日照時間は 2,020.2～2,444.4 時間を記録している。

表 3.2-1　久喜及び鴻巣地域気象観測所における気象の状況（令和 7 年）

月	降水量（㎜）［鴻巣］				気温（℃）［久喜］					日照時間（h）［久喜］
	合計	日最大	最大		平均			最高	最低	
			1 時間	10 分間	日平均	日最高	日最低			
1	19.5	15.5	6.0	1.5	4.6	11.3	-1.8	14.7	-5.5	230.4
2	6.0	6.0	1.0	0.5	4.7	11.6	-1.9	17.8	-5.5	249.9
3	116.5	35.5	8.0	2.5	9.5	16.1	3.9	25.9	-1.9	171.9
4	115.5	42.5	6.0	1.5	14.9	20.9	9.1	29.3	2.8	183.7
5	181.5	62.0	18.5	6.0	18.7	23.6	14.4	32.1	8.2	146.2
6	127.0	25.5	12.5	6.5	24.9	30.2	20.7	36.9	13.8	179.7
7	78.5	28.5	16.0	8.5	28.8	34.6	24.6	37.9	20.6	247.1
8	61.0	22.0	22.0	16.5	29.5	35.8	25.1	39.9	23.0	236.4
9	172.5	57.5	37.0	19.0	25.9	31.5	21.8	38.6	15.3	167.0
10	60.0	28.0	9.5	2.5	17.9	22.2	14.3	29.0	6.9	92.4 注
11	5.5	3.0	1.5	0.5	11.2	17.4	5.4	22.6	0.2	184.7
12	18.0	7.5	2.5	2.0	6.2	12.4	0.4	20.6	-3.8	199.0
年間	961.5	62.0	37.0	19.0	16.4	22.3	11.3	39.9	-5.5	2,288.4

注）統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う。（準正常値）

資料：「過去の気象データ検索」（令和8年2月閲覧、気象庁ホームページ）

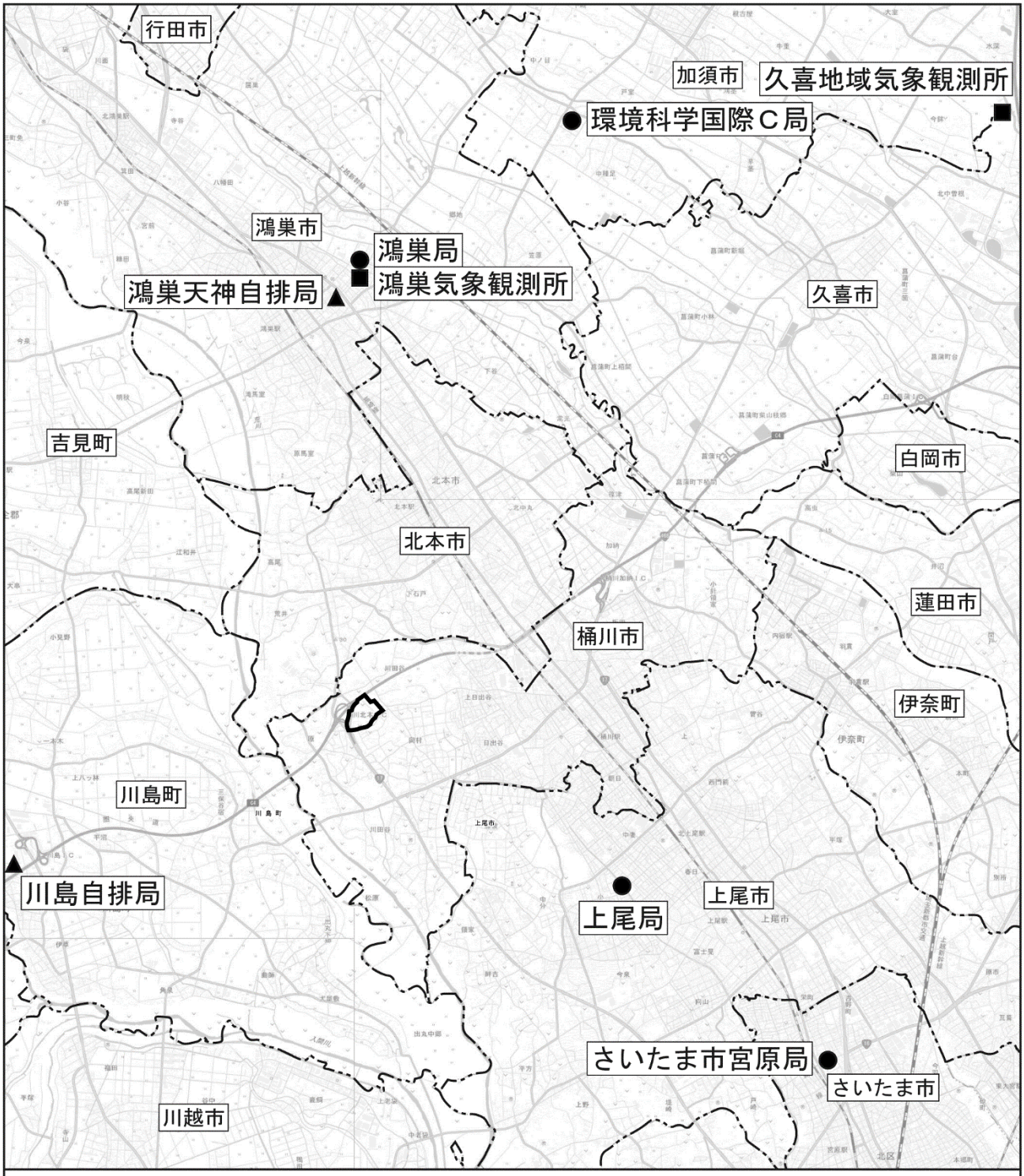
表 3.2-2　久喜及び鴻巣地域気象観測所における気象の状況（平成 28 年～令和 7 年）

年	降水量（㎜）［鴻巣］		気温（℃）［久喜］			日照時間（h）［久喜］
	合計	日最大	年平均	最高	最低	
平成28年	1,201.0	111.0	15.4	36.3	-5.9	2,020.2
平成29年	1,181.5	110.0	14.8	36.8	-7.4	2,196.5
平成30年	936.0	38.0	15.8	38.6	-9.2	2,223.0
令和元年	1,392.5	190.5	15.6	37.4	-5.5	2,052.2
令和 2年	1,195.5	66.0	15.6	38.7	-6.1	2,032.7 注1
令和 3年	1,150.5	56.5	15.5	36.0	-8.2	1,729.7 注2
令和 4年	1,256.0	99.0	15.4	39.2	-8.1	2,127.0
令和 5年	1,063.0	98.0	16.6	38.5	-7.7	2,444.4
令和 6年	1,159.0	85.0	16.6	39.1	-5.6	2,249.6
令和 7年	961.5	62.0	16.4	39.9	-5.5	2,288.4

注1）令和2年までのデータとそれ以降のデータでは観測場所を移転した、観測装置や観測の時間間隔を変更したことにより、データを単純比較することができない。

注2）令和3年の日照時間は、欠測等の理由により一部データが不足している。

資料：「過去の気象データ検索」（令和8年2月閲覧、気象庁ホームページ）



この地図は「地理院地図」（令和４年３月閲覧、国土地理院ホームページ）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- 市町界
- ■ 気象観測所
- ● 一般環境大気測定局
- ▲ 自動車排出ガス測定局

図 3.2-1　気象観測所及び大気汚染常時監視測定局

1：100，000
0　1000　2000　3000m

N

② 風向・風速

計画地の最寄りの一般大気常時監視測定局は、図 3.2-1 に示す上尾局であり、令和 6 年度における風向・風速については表 3.2-3 に、風配図については図 3.2-2 に、過去 10 年間における風向・風速の推移については表 3.2-4 に示すとおりである。

令和 6 年度の年間最多風向は北西、平均風速は 1.5m/s を記録している。また、過去 10 年間においては、年間最多風向は北西、平均風速は 1.3～1.6m/s を記録している。

表 3.2-3　上尾局における風向・風速の状況（令和 6 年度）

年	月	最多風向	平均風速（m/s）	最大風速及びその時の風向	
				風速（m/s）	風向
令和 6 年	4	北西	1.4	9.8	北西
	5	南	1.4	5.1	北西
	6	南	1.1	3.6	南南西
	7	西北西、北西	1.1	4.1	北北西
	8	南	1.3	3.9	北東
	9	南	1.3	4.1	北西
	10	北北西	1.3	6.8	北西
	11	北西	1.5	6.7	北西
	12	北西	1.5	6.7	北北西
令和 7 年	1	北西	1.6	7.7	北西
	2	北北西	2.3	8.8	北北西
	3	北西	2.0	8.3	北西
年間		北西	1.5	9.8	北西

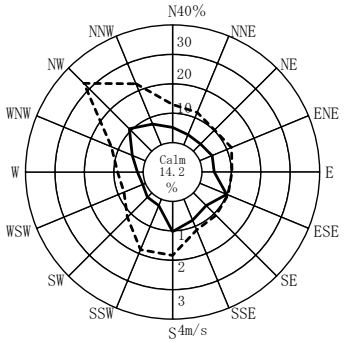
資料：「埼玉県大気汚染常時監視システム」（令和7年8月ダウンロード、埼玉県環境部大気環境課ホームページ）

表 3.2-4　上尾局における風向・風速の状況（平成 27 年度～令和 6 年度）

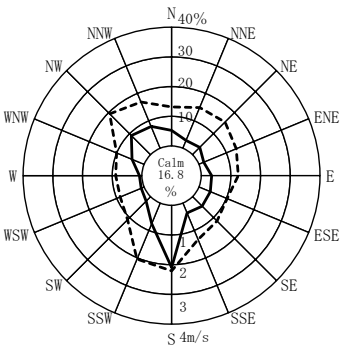
年	最多風向	平均風速（m/s）	最大風速及びその時の風向	
			風速（m/s）	風向
平成27年度	北西	1.3	9.2	北西
平成28年度	北西	1.5	10.5	西北西
平成29年度	北西	1.3	9.7	西北西
平成30年度	北西	1.5	8.3	北北西
令和元年度	北西	1.4	11.4	西北西
令和 2年度	北西	1.4	8.9	北西
令和 3年度	北北西	1.5	11.1	北西
令和 4年度	北北西	1.4	11.9	北西
令和 5年度	北西	1.6	10.8	北西
令和 6年度	北西	1.5	9.8	北西

資料：「埼玉県大気汚染常時監視システム」（令和7年8月ダウンロード、埼玉県環境部大気環境課ホームページ）

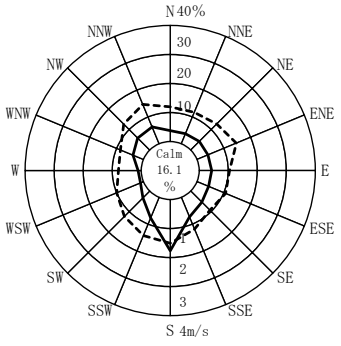
4 月



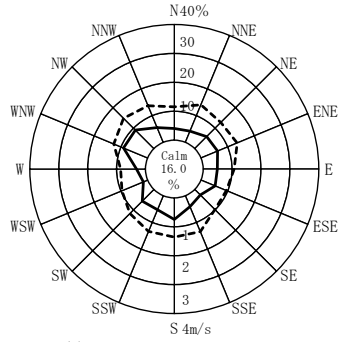
5 月



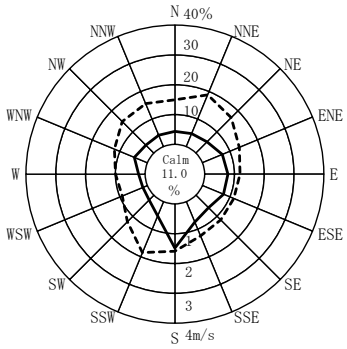
6 月



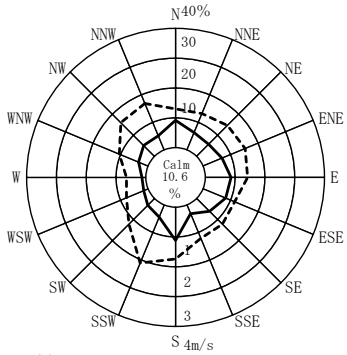
7 月



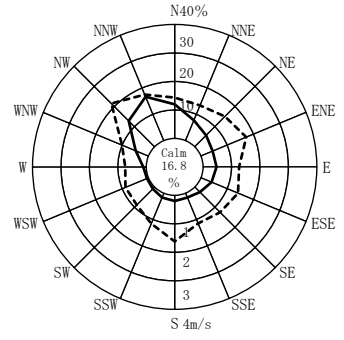
8 月



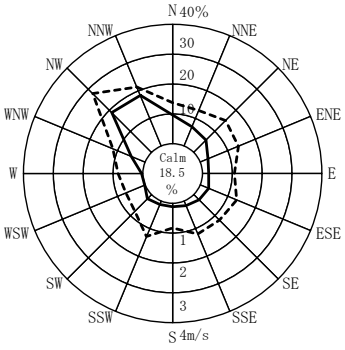
9 月



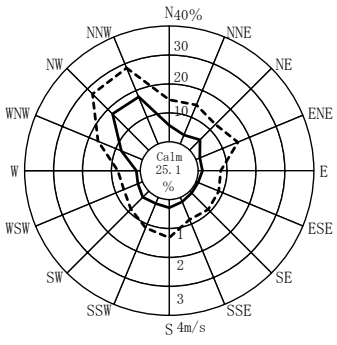
10 月



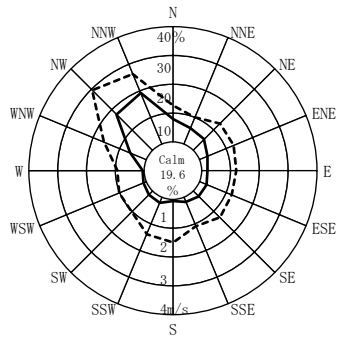
11 月



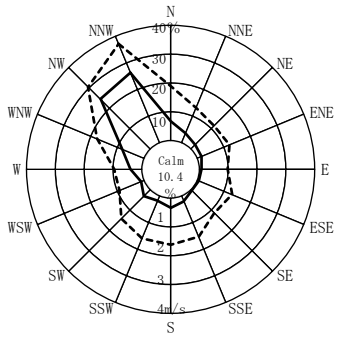
12 月



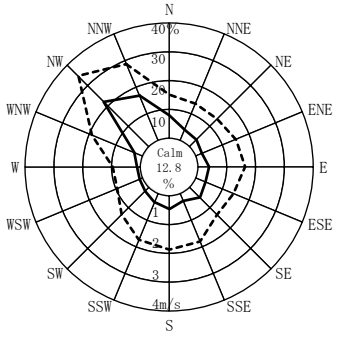
1 月



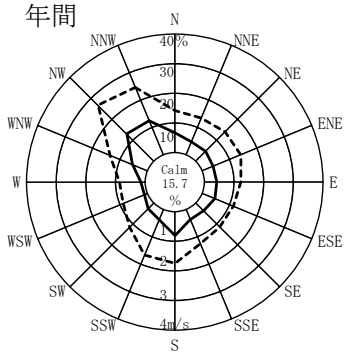
2 月



3 月



年間



——— ：出現率（%）

- - - - - ：平均風速（m/s）

Calm ：静穏出現率（%）（風速0.4m/s以下の場合）

調査地点：上尾局

測定高さ：約 9m

調査期間：令和 6 年 4 月 1 日(月)～令和 7 年 3 月 31 日(月)

資料:「埼玉県大気汚染常時監視システム」

(令和7年8月ダウンロード、埼玉県環境部大気環境課ホームページ)

図 3.2-2　上尾局における月別風配図（令和 6 年度）

2) 大気質

① 大気質の状況

計画地周辺の大気汚染常時監視測定局は、図 3.2-1 に示すとおりである。計画地の最寄りの一般大気環境測定局である上尾局及び鴻巣局、自動車排出ガス測定局である川島自排局における令和 5 年度の各項目の測定結果は、表 3.2-5～表 3.2-10 に示すとおりである。

二酸化窒素、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質及び微小粒子物質については、いずれも環境基準を達成している。一方、光化学オキシダントについては非達成である。また、非メタン炭化水素については、「炭化水素に係る指針」（昭和 57 年 1 月、中央公害対策審議会答申）をいずれも非達成である。

表 3.2-5　二酸化窒素の測定結果（令和 5 年度）

区分	測定局	年間平均値 (ppm)	日平均値の 年間 98%値 (ppm)	環境基準 (達成○・非達成×)
一般環境大気測定局	上尾局	0.008	0.022	○
	鴻巣局	0.008	0.019	○
自動車排出ガス測定局	川島自排局	0.011	0.025	○

注1)環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。
注2)環境基準の評価方法については、表3.1-16を参照。
資料：「令和5年度　大気汚染物質の常時監視測定結果報告書」（令和7年3月、埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-6　二酸化硫黄の測定結果（令和 5 年度）

区分	測定局	年間平均値 (ppm)	日平均値の 2%除外値 (ppm)	2 日連続の 有無	環境基準 (達成○・非達成×)	
					長期的評価	短期的評価
一般環境 大気測定局	鴻巣局	0.001	0.001	無	○	○

注1)環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
注2)環境基準の評価方法については、表3.1-16を参照。
資料：「令和5年度　大気汚染物質の常時監視測定結果報告書」（令和7年3月、埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-7　光化学オキシダントの測定結果（令和 5 年度）

区分	測定局	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数	昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の時間数	環境基準 (達成○・非達成×)
一般環境大気測定局	上尾局	454	8	×
	鴻巣局	450	4	×

注1)環境基準：1時間値が0.06ppm以下であること。
注2)環境基準の評価方法については、表3.1-16を参照。
資料：「令和5年度　大気汚染物質の常時監視測定結果報告書」（令和7年3月、埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-8　浮遊粒子状物質の測定結果（令和 5 年度）

区分	測定局	年間平均値 (mg/m³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m³)	2 日連続の有無	環境基準（達成○・非達成×）	
					長期的評価	短期的評価
一般環境大気測定局	上尾局	0.013	0.033	無	○	○
	鴻巣局	0.014	0.034	無	○	○
自動車排出ガス測定局	川島自排局	0.016	0.036	無	○	○

注1)環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
注2)環境基準の評価方法については、表3.1-16を参照。
資料：「令和5年度　大気汚染物質の常時監視測定結果報告書」（令和7年3月、埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-9　微小粒子状物質の測定結果（令和 5 年度）

区分	測定局	年間平均値 (μg/m³)	日平均値の年間 98%値 (μg/m³)	環境基準（達成○・非達成×）	
				長期的評価	短期的評価
一般環境大気測定局	上尾局	10.3	22.6	○	○
	鴻巣局	9.9	21.8	○	○
自動車排出ガス測定局	川島自排局	11.1	23.2	○	○

注1)環境基準：1年平均値が15μg/m³以下であり、かつ、1日平均値が35μg/m³以下であること。
注2)環境基準の評価方法については、表3.1-16を参照。
資料：「令和5年度　大気汚染物質の常時監視測定結果報告書」（令和7年3月、埼玉県環境部大気環境課）

表 3.2-10　非メタン炭化水素の測定結果（令和 5 年度）

区分	測定局	年間平均値 (ppmC)	6～9 時の測定日数（日）	6～9 時における年平均値 (ppmC)	6～9 時の 3 時間平均値が 0.20ppmC を超えた日数（日）	6～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を超えた日数（日）	指針[注]との比較（達成○・非達成×）
一般環境大気測定局	鴻巣局	0.13	365	0.13	40	4	×
自動車排出ガス測定局	川島自排局	0.09	364	0.10	25	3	×

注）指針：「炭化水素に係る指針」の内容は、「6～9時までの3時間平均値が0.20ppmCから0.31ppmCの範囲内又はそれ以下であること」である。
資料：「令和5年度　大気汚染常時監視測定結果報告書」（令和7年3月、埼玉県環境部大気環境課）

② 苦情の状況

関係市町における公害苦情件数は、表 3.2-11 に示すとおりである。

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」（令和 7 年 3 月、桶川市）によると、令和 5 年度の公害に関する苦情件数は、合計 40 件である。このうち、大気汚染に関する苦情は 16 件（全体の 40.0%）となっている。

表 3.2-11　公害苦情件数

県市町	大気汚染	水質汚濁	土壌汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	その他	総数	年度
桶川市	16	0	0	7	6	0	7	4	40	令和 5年度
鴻巣市	14	0	0	9	0	0	9	109	141	令和 6年度
上尾市	7	12	0	56	10	0	77	365	527	令和 5年度
北本市	0	2	0	6	3	0	4	0	15	令和 4年度
川島町	7（内訳不詳）								7	平成27年度
吉見町	3	3	－	2	－	－	－	0	8	令和 3年度
埼玉県	584	121	4	1,055	179	3	432	471	2,849	令和 6年度

資料：「桶川市統計書　令和5年度版」（令和7年3月、桶川市）
「統計こうのす　令和6年版」（令和8年1月、鴻巣市総務部総務課）
「統計あげお　令和6年版」（令和7年6月更新、上尾市総務部総務課ホームページ）
「北本の統計　令和5年（2023）版」（令和6年3月、北本市政策推進部政策推進課）
「平成28年　埼玉県市町村勢概要」（平成29年3月、埼玉県総務部統計課）
「第二次吉見町環境基本計画」（令和5年3月、吉見町）
「令和6年度　公害苦情調査報告書」（令和7年12月、総務省公害等調査委員会事務局）

3) 騒音

① 騒音の状況

計画地及び周辺における自動車騒音の面的評価結果は表 3.2-12 に、点的評価結果は表 3.2-13 に、自動車騒音の調査地点は図 3.2-3 に示すとおりである。

面的評価では、県道東松山桶川線において基準値を超過する戸数が多くなっている。

点的評価でも、国道 17 号の調査地点において環境基準を超過している。

表 3.2-12　自動車騒音の面的評価結果（令和 5 年度）

番号	道路名	評価区間		評価区間延長(km)	等価騒音レベル(dB)		評価対象住居等戸数	環境基準達成戸数			未達成戸数
		始点住所	終点住所		昼間	夜間		全日	昼間のみ	夜間のみ	
1	上尾道路	桶川市川田谷	桶川市川田谷	2.0	59	55	43	43	0	0	0
2	県道川越栗橋線	桶川市川田谷	桶川市泉 2 丁目 5	3.0	70	65	444	444	0	0	0
3	県道川越栗橋線	桶川市川田谷	桶川市川田谷	1.3	69	66	45	44	1	0	0
4	圏央道	桶川市川田谷	桶川市川田谷	1.3	59	57	40	40	0	0	0
5	県道さいたま鴻巣線	桶川市川田谷	桶川市川田谷	2.4	64	55	145	144	1	0	0
6	県道さいたま鴻巣線	北本市荒井	北本市西高尾 6 丁目	2.0	67	61	151	151	0	0	0
7	県道下石戸上菖蒲線	北本市荒井	北本市緑	1.7	67	60	258	258	0	0	0
8	県道東松山桶川線	北本市荒井	北本市石戸	0.6	－	－	65	64	0	0	1
9		北本市石戸	北本市中丸	3.4	－	－	547	490	11	0	46
10	県道鴻巣桶川さいたま線	桶川市加納	桶川市西 2 丁目 11	0.7	64	58	234	232	0	0	2
11	県道鴻巣桶川さいたま線	北本市本宿	北本市二ツ家 4 丁目	2.3	69	65	435	434	0	0	1
12	県道鴻巣桶川さいたま線	北本市深井	北本市本宿	2.9	67	62	782	782	0	0	0

注)「全国自動車交通騒音マップ」に表示のある区間を抜粋した。

資料：「令和 5 年度　自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（令和 7 年 4 月、埼玉県環境部水環境課）

「全国自動車交通騒音マップ」（令和 6 年 7 月閲覧、国立環境研究所ホームページ）

表 3.2-13　自動車騒音の点的評価結果（令和 5 年度）

道路名	測定地点住所	環境基準類型	車線数合計	幹線道路近接空間	等価騒音レベル（dB）				環境基準適合状況（達成○・非達成×）
					昼間	環境基準達成	夜間	環境基準達成	
国道 17 号	桶川市北 1-25-23	C 地域	4	含	67	○ (70)	68	× (65)	×

注1）路線名は下記資料の路線名表示に合わせた。

注2）「幹線道路近接空間」欄の「含」は、測定地点が当該空間に含まれることを示す。

注3）環境基準達成欄の（）内は環境基準値

資料：「令和5年度　自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（令和7年4月、埼玉県環境部水環境課）

② 苦情の状況

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」によると、令和 5 年度の騒音に関する苦情は 7 件（全体の 17.5%）となっている（表 3.2-11 参照）。

4) 振動

① 振動の状況

計画地及び周辺における道路交通振動の測定結果は表 3.2-14 に、調査地点は図 3.2-3 に示すとおりである。

国道 17 号において、要請限度を下回っている。

表 3.2-14　道路交通振動の測定結果（令和 5 年度）

道路名	測定場所	区域区分	車線数	振動レベル（dB）				適否
				昼間	要請限度達成	夜間	要請限度達成	
国道 17 号	桶川市北 1-25-23	第 2 種	4	55	○(70)	55	○(65)	○

注)要請限度達成欄の（）内は要請限度基準値

資料：「令和5年度　自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」（令和7年4月、埼玉県環境部水環境課）

② 苦情の状況

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」によると、令和 5 年度の振動に関する苦情は 6 件（全体の 15.0%）となっている（表 3.2-11 参照）。

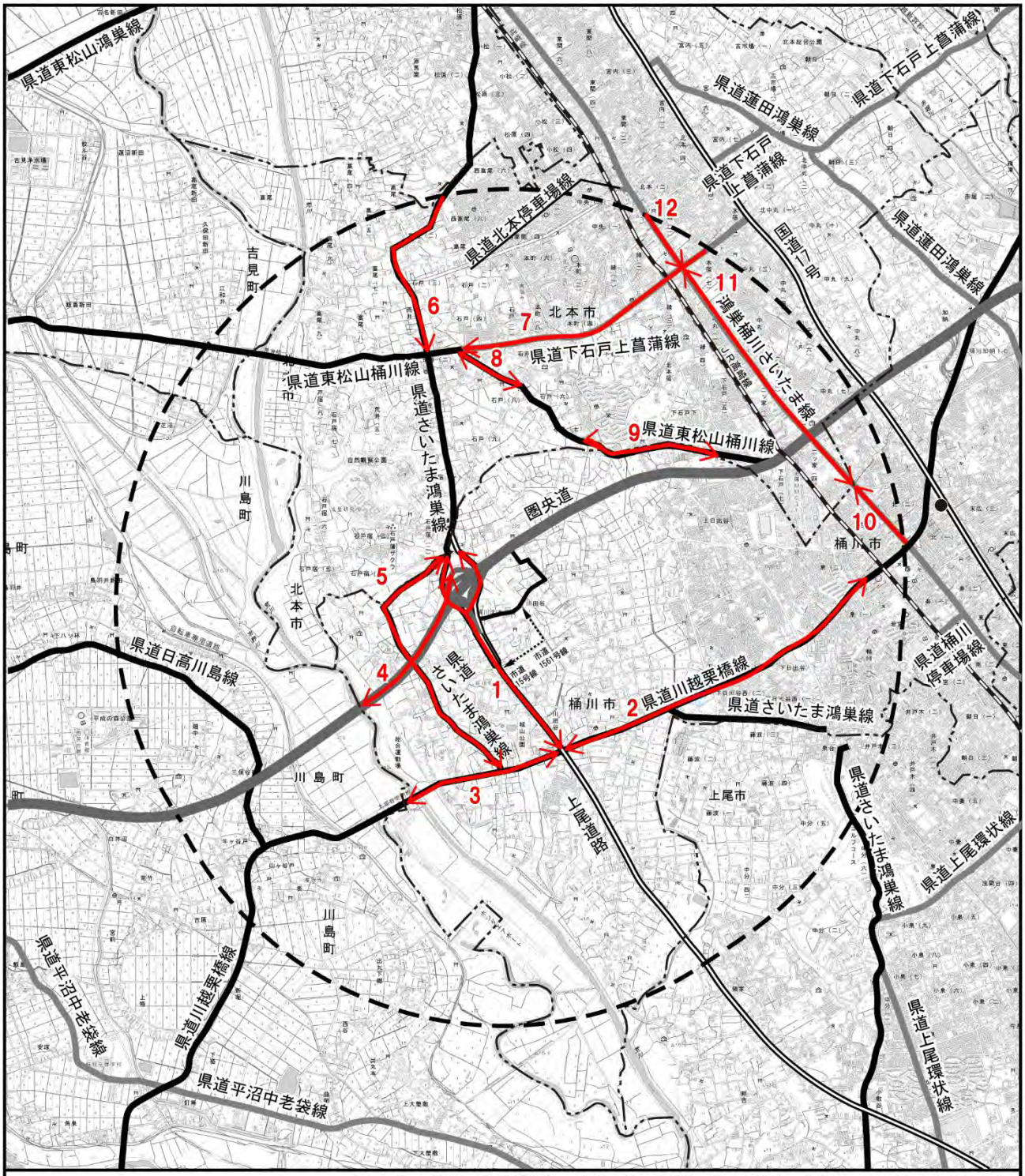
5) 悪臭

① 悪臭の状況

計画地及び周辺では、悪臭について公表された調査結果は無い。

② 苦情の状況

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」によると、令和 5 年度の悪臭に関する苦情は 7 件（全体の 17.5%）となっている（表 3.2-11 参照）。



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 高規格幹線道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- ＪＲ線
- 騒音調査区間（面的評価）
- 騒音調査地点（点的評価）振動調査地点

図 3.2-3　自動車騒音・道路交通振動の調査地点

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

(2) 水質、底質、水象の状況

1) 水質

① 河川

計画地及び周辺の河川等の公共用水域における水質の状況は、表 3.2-15 及び表 3.2-16 に、各測定地点の位置は図 3.2-4 に示すとおりである。

計画地が位置する桶川市では、市内河川の BOD を測定している。また、関係市町の上尾市及び北本市においても水質測定が行われている。なお、北本市で水質測定されている荒川は環境基準の類型が指定されているが、それ以外の河川は類型指定されていない。

桶川市による令和 5 年度の BOD 測定結果は、石川川（石川堀）の 1 地点（石川落し）と江川の 2 地点において、参考とする環境基準（流入する荒川中流の類型指定値）を上回っている。

また、上尾市の江川・滝ノ宮橋では BOD が参考とする環境基準（流入する荒川中流の類型指定値）を上回っているが、それ以外の地点及び項目は参考とする環境基準に適合している。

表 3.2-15　桶川市による水質測定結果（令和 5 年度）

単位：mg/L

河川	石川堀		江川		【参考】環境基準 A 類型（荒川中流）
地点	諏訪南	石川落し	北本市境	滝ノ宮橋	
番号	1	2	3	4	
BOD	1.1	4.1	2.2	2.1	2 以下

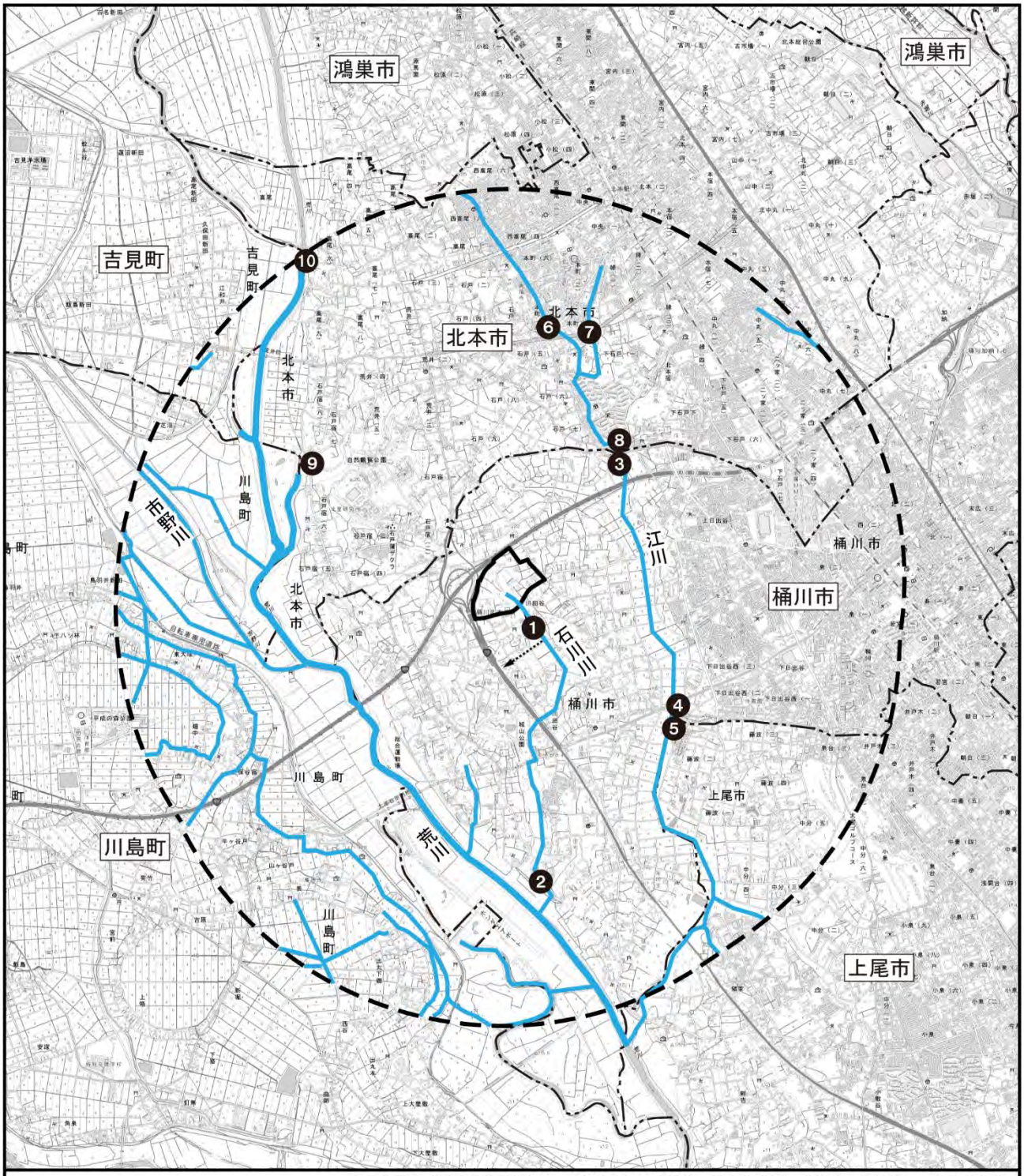
注）参考となる環境基準に適合しない値は、網掛けで示している。石川川（石川堀）及び江川は、環境基準の類型指定はされていない。

資料：「桶川市統計書　令和5年度版」（令和7年3月、桶川市）

表 3.2-16　上尾市及び北本市による水質測定結果（令和 5･6 年度）

測定機関			上尾市	北本市					【参考】環境基準 A 類型・生物 B 類型（荒川中流）
河川			江川	江川（勝林水路）			城ヶ谷堤	荒川	
地点			滝ノ宮橋	本町8	本町 4	下石戸上	桜堤	高尾橋	
番号			5	6	7	8	9	10	
項目		単位							
生活環境項目	pH	－	7.5	7.1	7.9	7.1	7.3	7.6	6.5 以上 8.5 以下
	BOD	mg/L	1.7	5.4	1.8	3.3	1.7	1.7	2 以下
	SS	mg/L	6	2.0	1.0	2.0	4.0	4.0	25 以下
	DO	mg/L	8.6	11.0	16.0	9.4	14.0	14.0	7.5 以上
	全亜鉛	mg/L	0.010	－	－	－	－	－	0.03 以下
	全窒素	mg/L	4.2	－	－	6.1	－	1.7	－
	全燐	mg/L	0.23	－	－	0.45	－	0.09	－
	n-ヘキサン抽出物質	mg/L	ND	－	－	1.2	－	<0.5	－
健康項目	カドミウム	mg/L	<0.0003	－	－	<0.0003	－	<0.0003	0.003 以下
	全シアン	mg/L	ND	－	－	<0.10	－	<0.10	検出されないこと
	鉛	mg/L	<0.001	－	－	<0.001	－	<0.001	0.01 以下
	六価クロム	mg/L	<0.005	－	－	<0.02	－	<0.02	0.05 以下
	砒素	mg/L	<0.001	－	－	<0.001	－	<0.001	0.01 以下
	総水銀	mg/L	<0.0005	－	－	<0.0005	－	<0.0005	0.0005 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	－	－	－	<0.001	－	<0.001	1 以下
	トリクロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.001	－	<0.001	0.01 以下
	テトラクロロエチレン	mg/L	－	－	－	<0.001	－	<0.001	0.01 以下
	硝酸性窒素	mg/L	3.7	－	－	－	－	－	10 以下
	亜硝酸性窒素	mg/L	0.075	－	－	－	－	－	10 以下
	ふっ素	mg/L	0.03	－	－	－	－	－	0.8 以下
特殊項目	フェノール類	mg/L	<0.005	－	－	－	－	－	－
	銅	mg/L	<0.01	－	－	－	－	－	－
	溶解性鉄	mg/L	<0.1	－	－	－	－	－	－
	溶解性マンガン	mg/L	<0.05	－	－	－	－	－	－
	クロム	mg/L	<0.01	－	－	－	－	－	－
その他の項目	有機リン化合物	mg/L	－	－	－	－	－	－	－
	アンモニア性窒素	mg/L	0.1	－	－	－	－	－	－
	ケルダール窒素	mg/L	0.52	－	－	－	－	－	－
	リン酸性リン	mg/L	0.20	－	－	－	－	－	－
	導電率	ms/m	30	－	－	－	－	－	－
	陰イオン界面活性剤	mg/L	0.01	－	－	0.17	－	<0.05	－

注1)参考となる環境基準に適合しない値は、網掛けで示している。
　　ND：不検出、－：測定対象外
注2)江川及び城ヶ谷堤は、環境基準の類型指定はされていない。
注3)上尾市は令和6年度の値、北本市は令和5年度の値である。
資料：「2024（令和6）年度上尾市環境年次報告書」（令和8年1月、上尾市環境経済部環境政策課）
　　「令和6年度版環境施策に関する年次報告書（令和5年度実績）」（令和7年3月、北本市）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 水質調査地点
- 河川

図 3.2-4　河川の分布及び水質測定地点

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

② 地下水

計画地及び周辺では地下水の水質測定が行われており、概況調査の結果は表3.2-17に、継続監視調査の結果は表3.2-18に示すとおりである。

関係市町全域の平成28年度～令和5年度の概況調査の結果をみると、砒素について、吉見町において環境基準を超過している地点がある。

令和4・5年度の継続監視調査結果をみると、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素について、桶川市において環境基準を超過している地点がある。

表3.2-17　地下水の概況調査結果（平成28年度～令和5年度）

単位：地点数

	項目	桶川市	鴻巣市	上尾市	北本市	川島町	吉見町	地下水環境基準 (mg/L)
基準超過地点数	カドミウム	0	0	0	0	0	0	0.003 以下
	全シアン	0	0	0	0	0	0	検出されないこと
	有機燐	0	0	0	0	0	0	0.01　以下
	鉛	0	0	0	0	0	0	0.01　以下
	六価クロム	0	0	0	0	0	0	0.02　以下
	砒素	0	0	0	0	0	3	0.01　以下
	総水銀	0	0	0	0	0	0	0.0005 以下
	アルキル水銀	0	0	0	0	0	0	検出されないこと
	PCB（ポリ塩化ビフェニル）	0	0	0	0	0	0	検出されないこと
	銅	0	0	0	0	0	0	0.002 以下
	ジクロロメタン	0	0	0	0	0	0	0.002 以下
	四塩化炭素	0	0	0	0	0	0	0.002 以下
	クロロエチレン(別名塩化ビニル又は塩化ビニルモノマー)	0	0	0	0	0	0	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン	0	0	0	0	0	0	0.04　以下
	1,1-ジクロロエチレン	0	0	0	0	0	0	1　以下
	1,2-ジクロロエチレン	0	0	0	0	0	0	0.006 以下
	1,1,1-トリクロロエタン	0	0	0	0	0	0	0.01　以下
	1,1,2-トリクロロエタン	0	0	0	0	0	0	0.01　以下
	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	0	0.002 以下
	テトラクロロエチレン	0	0	0	0	0	0	0.006 以下
	1,3-ジクロロプロペン	0	0	0	0	0	0	0.003 以下
	チウラム	0	0	0	0	0	0	0.02　以下
	シマジン	0	0	0	0	0	0	0.01　以下
	チオベンカルブ	0	0	0	0	0	0	0.01　以下
	ベンゼン	0	0	0	0	0	0	10　以下
	セレン	0	0	0	0	0	0	0.8　以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	0	0	0	0	0	0	1　以下
	ふっ素	0	0	0	0	0	0	0.05　以下
	ほう素	0	0	0	0	0	0	0.003 以下
	1,4-ジオキサン	0	0	0	0	0	0	検出されないこと
調査地点数		5	15	9	6	11	7	―

注1)環境基準を超過した地点のある項目は、網掛けで示している。
注2)県内の地下水室の概況を把握するための調査で、山岳部を除いた県全域を経緯度法により概ね2km四方の区画で区分し、全ての区画を8年で一巡する頻度で実施している。
資料：「公共用水域及び地下水の水質測定結果（平成28年度～令和5年度）」
（平成30年3月～令和7年3月、埼玉県環境部水環境課）

表 3.2-18　地下水の継続監視調査結果（令和 4・5 年度）

単位：mg/L

市町	調査地区	砒素	四塩化炭素	1,1-ジクロロエチレン	1,2-ジクロロエチレン	1,1,1-トリクロロエタン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	クロロエチレン	調査年度
桶川市	川田谷 1	—	—	—	—	—	—	—	13	—	5
	川田谷 2	—	—	—	—	—	—	—	27	—	4
	倉田	—	—	—	—	—	—	—	10	—	4
	上日出谷 1	—	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	<0.0005	—	<0.0002	5
	上日出谷 2	—	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0015	—	<0.0002	5
	上日出谷 3	—	<0.0002	<0.002	<0.004	<0.0005	<0.001	0.0029	—	<0.0002	4
鴻巣市	箕田	—	—	—	—	—	—	—	3.2	—	4
	滝馬室								8.7		5
	屈巣								11		5
上尾市	大谷本郷	—	—	—	—	—	—	—	8.6	—	4
	大谷本郷	—	—	<0.002	0.004	—	<0.001	—	—	<0.0002	4
	大谷本郷	—	—	<0.002	<0.004	—	<0.001	—	—	<0.0002	4
	平塚 1	—	—	—	—	<0.0005	<0.001	<0.0005	—	—	4
	平塚 2	—	—	—	—	<0.0005	<0.001	<0.0005	—	—	4
	平塚 3	—	—	—	—	—	—	—	28	—	5
	本町	—	—	—	—	—	—	—	10	—	5
	平方領々家	—	—	—	—	—	—	—	9.2	—	4
北本市	石戸宿	—	—	—	—	—	—	—	20	—	5
	荒井	—	—	—	—	—	—	—	18	—	5
川島町	三保谷宿	—	—	—	—	—	—	—	1.2	—	5
地下水環境基準		0.01 以下	0.002 以下	0.1 以下	0.04 以下	1 以下	0.01 以下	0.01 以下	10 以下	0.002 以下	—

注1)環境基準を超過した値は、網掛けで示している。
注2)—：測定対象外
注3)汚染が確認された地域について、継続的に監視を行うために実施する調査である。濃度変動の有無等により測定頻度の増減を行い、1～2年に1回の測定としている。
資料：「令和5年度　公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和7年3月、埼玉県環境部水環境課）
「令和4年度　公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年3月、埼玉県環境部水環境課）

③ 苦情の状況

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」によると、令和 5 年度の水質汚濁に関する苦情は 0 件となっている（表 3.2-11 参照）。

2) 底質

計画地及び周辺では、底質について公表された調査結果は無い。

3) 水象

計画地及び周辺の水象として河川の分布状況は、図 3.2-4 に示したとおりである。

計画地周辺には、計画地の西側を一級河川荒川が南北に、また東側を一級河川江川が南北に流れている。江川は、計画地の南で荒川に合流する。また、計画地内から南東方向には石川川が流れており、計画地の南で荒川に合流している。

(3) 土壌及び地盤の状況

1) 土壌

① 農用地における土壌汚染

埼玉県では、農用地の土壌汚染状況を把握するため、銅、砒素及びカドミウムについて5年に一度調査を行っている。

昭和54年度～令和4年度における土壌汚染状況調査結果は、表3.2-19に示すとおりである。各項目とも、全て土壌の汚染に係る環境基準に適合している。

表3.2-19　農用地の土壌汚染状況調査の分析測定結果

調査年度		土壌中（乾物）								玄米中（現物）			
		銅				砒素				カドミウム			
		分析測定結果 (mg/kg)			調査地点数	分析測定結果 (mg/kg)			調査地点数	分析測定結果 (mg/kg)			調査地点数
		最高	最低	平均		最高	最低	平均		最高	最低	平均	
一巡目	昭和54～57 全県	32.3	0.1	11.3	90	11.8	tr	1.9	90	0.37	0.02	0.11	46
二巡目	昭和59～62 全県	23.6	0.1	9.0	90	5.3	tr	1.4	90	0.30	nd	0.09	48
三巡目	平成元～4 全県	21.6	0.3	9.3	90	8.0	tr	1.8	90	0.38	tr	0.09	46
四巡目	平成6～9 全県	28.7	0.2	9.4	87	13.1	tr	2.2	87	0.30	tr	0.06	31
五巡目	平成11～14 全県	30.8	0.1	11.2	180	11.3	0.1	2.0	180	0.28	tr	0.09	50
六巡目	平成16～19 全県	21.5	tr	8.9	180	6.4	0.1	1.7	180	0.31	tr	0.06	47
七巡目	平成21～24 全県	21.7	tr	9.5	165	7.9	tr	1.7	165	0.22	tr	0.03	43
八巡目	平成26～29 全県	25.5	0.1	9.1	118	10.5	0.2	2.5	118	0.29	tr	0.05	31
九巡目	令和元～4 全県	24.4	0.1	9.1	109	10.1	0.1	1.9	109	0.23	0.02	0.09	37
十巡目	令和6 全県	22.1	1.1	12.3	21	5.7	0.4	2.4	21	0.02	tr	0.01	8
土壌汚染環境基準（農用地）		125未満				15未満				0.4未満			

注)nd：検出限界以下、tr：極微量検出
県農業技術研究センターの分析測定結果で、昭和58年、63年、平成5年、10年、15年、20年、25年、30年、令和5年は各調査巡の取りまとめ年である。

資料：「令和7年版　埼玉県環境白書」（令和7年12月、埼玉県環境部環境政策課）

② ダイオキシン類

埼玉県では、「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく土壌の常時監視測定（一般環境把握調査及び発生源周辺状況把握調査）を行っている。

関係市の調査地点における過去 10 年間の一般環境把握調査及び発生源周辺状況把握調査の結果は、表 3.2-20 に示すとおりであり、全ての地点で「ダイオキシン類対策特別措置法」に基づく環境基準に適合している。

表 3.2-20　土壌中のダイオキシン類の常時監視測定結果

調査区分	調査年度	調査地点		調査結果 (pg-TEQ/g)
一般環境把握調査	平成 26 年度	北本市	中丸	9.5
発生源周辺状況調査	平成 27 年度	桶川市	赤堀	5.0
			小針領家(1)	3.7
			小針領家(2)	6.1
			小針領家(3)	9.5
			倉田	100
一般環境把握調査	平成 28 年度	北本市	栄	30
ダイオキシン類環境基準（土壌）			1,000 以下	

資料：「土壌常時監視結果 ダイオキシン類」（令和8年2月閲覧、埼玉県環境部水環境課ホームページ）

③ 土壌の分布状況

計画地及び周辺の表層土壌の分布状況は、図 3.2-5 に示すとおりである。

計画地は、台地部に淡色黒ボク土壌の「川田谷統」、谷低平野に黒ボクグライ土壌の「三ツ木統」が分布している。計画地周辺については、上記の土壌に加え、黒ボク土壌の「青山統」が分布しており、一部に黒ボク土壌の「桶川統」や黒ボクグライ土壌の「上尾統」等が点在している。また、荒川沿いには、主に灰色低地土壌の「清水統」が分布している。

④ 苦情の状況

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」によると、令和 5 年度の土壌汚染に関する苦情は 0 件となっている（表 3.2-11 参照）。

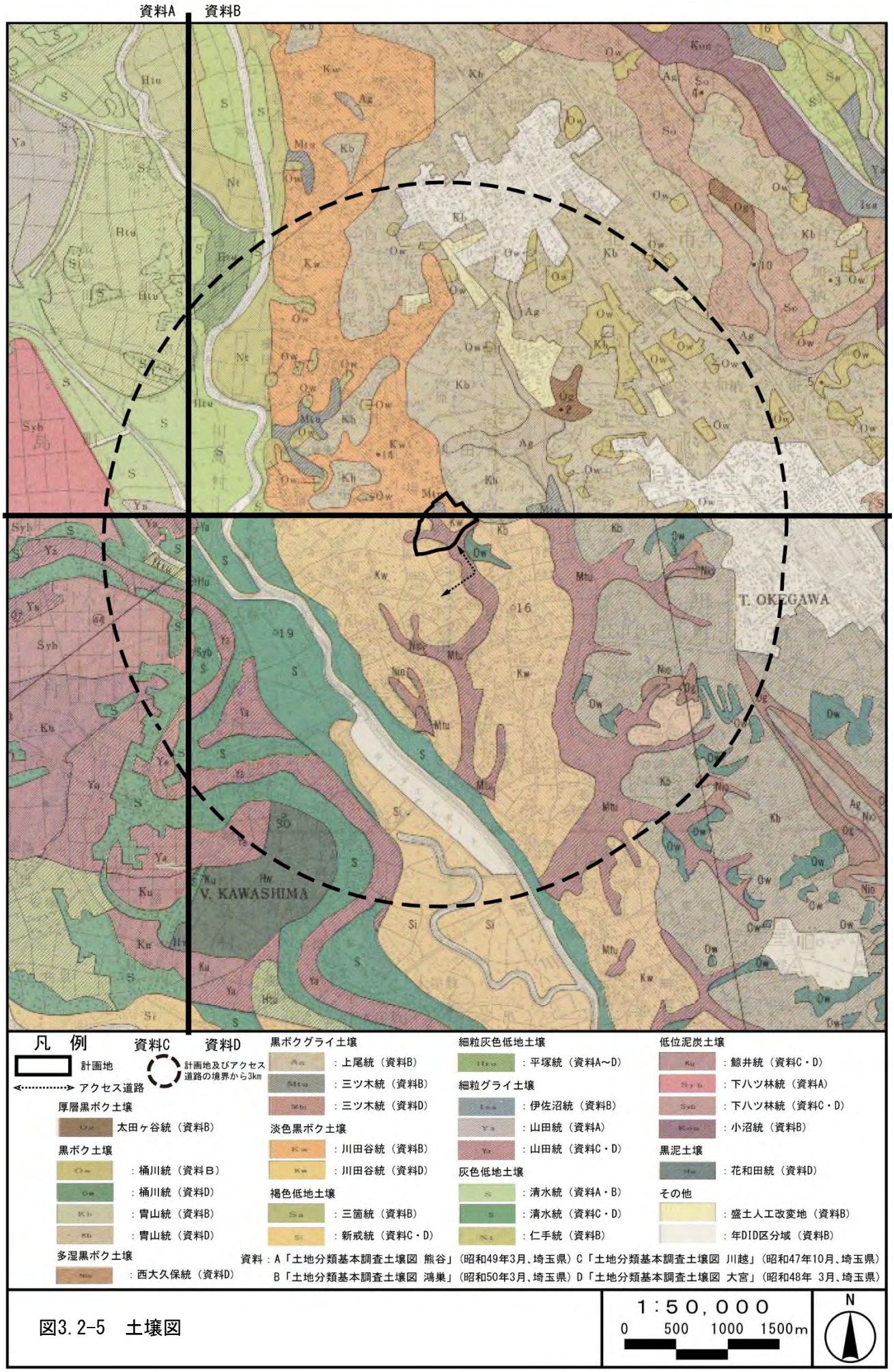

資料A
資料B
資料C
資料D
T. OKEGAWA
V. KAWASHIMA
凡　例
計画地
アクセス道路
計画地及びアクセス道路の境界から3km
厚層黒ボク土壌
太田ヶ谷統（資料B）
黒ボク土壌
：桶川統（資料B）
：桶川統（資料D）
：青山統（資料B）
：青山統（資料D）
多湿黒ボク土壌
：西大久保統（資料D）
黒ボクグライ土壌
：上尾統（資料B）
：三ツ木統（資料B）
：三ツ木統（資料D）
淡色黒ボク土壌
：川田谷統（資料B）
：川田谷統（資料D）
褐色低地土壌
：三箇統（資料B）
：新戒統（資料C・D）
細粒灰色低地土壌
：平塚統（資料A～D）
細粒グライ土壌
：伊佐沼統（資料B）
：山田統（資料A）
：山田統（資料C・D）
灰色低地土壌
：清水統（資料A・B）
：清水統（資料C・D）
：仁手統（資料B）
低位泥炭土壌
：鯨井統（資料C・D）
：下八ツ林統（資料A）
：下八ツ林統（資料C・D）
：小沼統（資料B）
黒泥土壌
：花和田統（資料D）
その他
：盛土人工改変地（資料B）
：年DID区分域（資料B）
資料：A「土地分類基本調査土壌図 熊谷」（昭和49年3月、埼玉県）C「土地分類基本調査土壌図 川越」（昭和47年10月、埼玉県）
B「土地分類基本調査土壌図 鴻巣」（昭和50年3月、埼玉県）D「土地分類基本調査土壌図 大宮」（昭和48年 3月、埼玉県）
1：50，000
0　500　1000　1500m
N

図3.2-5　土壌図

2) 地盤

① 地盤沈下の状況

計画地及び周辺では、地盤沈下について公表された調査結果は無い。

計画地及び周辺の東側では国道 17 号に沿って地盤沈下の調査が実施されており、平成 31 年～令和 5 年の地盤標高の変動量の測量結果は表 3.2-21 に、調査地点は図 3.2-6 に示すとおりである。

過去 5 年間の地盤標高の変動量は 2.3～7.9㎜ であり、令和 5 年の 1 年間の変動量は -3.0～0.8㎜ となっている。

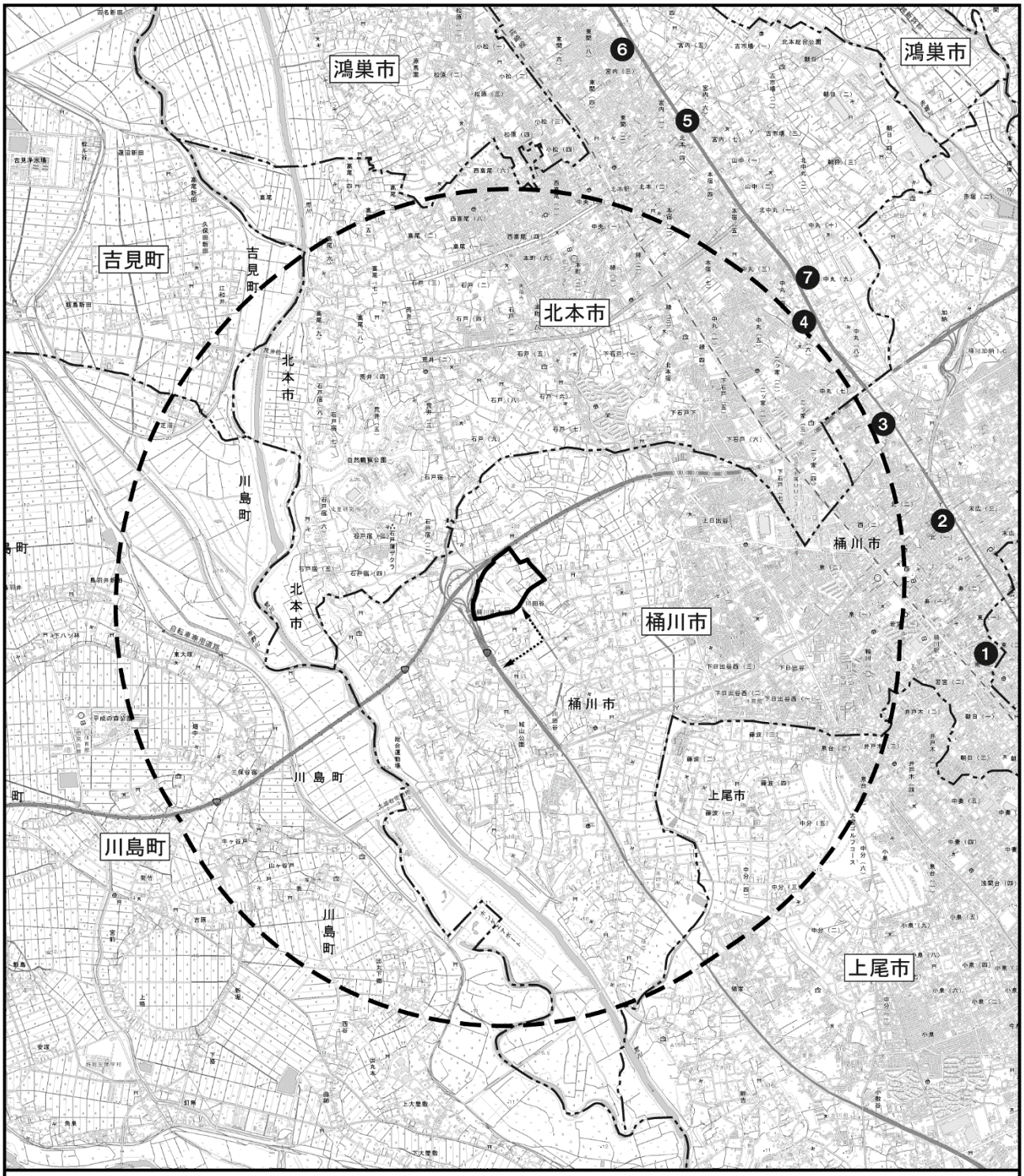
表 3.2-21　地盤標高の変動量の推移

番号	調査地点 所在地	調査開始年月日	各年別変動量（㎜）					過去 5 年間の変動量（㎜）	調査開始からの変動量（㎜）	R6.1.1 の真高（T.P.）（m）
			平成 31 年 令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年			
1	桶川市 南 2 丁目 6-9	昭和 48 年 1 月 1 日	2.3	-6.4	9.6	-0.3	-1.9	3.3	-189.7	19.7884
2	桶川市北 1 丁目 25-34 地先	昭和 48 年 1 月 1 日	1.7	-4.6	7.0	1.2	-3.0	2.3	-169.5	19.1938
3	桶川市 加納 169 地先	昭和 48 年 1 月 1 日	2.9	-6.0	7.2	0.9	-1.6	3.4	-176.6	18.2195
4	北本市中丸 6 丁 目 141 地先	昭和 49 年 1 月 1 日	5.4	-4.9	8.2	1.1	-2.2	7.6	-135.8	18.7370
5	北本市宮内 6 丁 目 27 地先	平成 22 年 1 月 1 日	1.9	0.1	5.6	-1.0	0.8	7.4	-30.8	22.1248
6	北本市深井 4 丁 目 188 地先	昭和 49 年 1 月 1 日	0.7	1.7	4.7	0.7	-0.6	7.2	-145.5	21.2627
7	北本市 中丸 9 丁目 201	昭和 59 年 1 月 1 日	5.8	-4.2	7.1	1.2	-2.0	7.9	-44.1	19.1264

資料：「埼玉県地盤沈下調査報告書（令和5年度観測成果）」（令和7年1月、埼玉県）

② 苦情の状況

計画地が位置する桶川市の「桶川市統計書　令和 5 年度版」によると、令和 5 年度の地盤沈下に関する苦情は 0 件となっている（表 3.2-11 参照）。



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 地盤沈下調査地点

図 3.2-6　地盤標高の変動量の調査地点

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

(4) 地形及び地質の状況

1) 地形の状況

計画地及び周辺の地形分類は、図 3.2-7 に示すとおりである。

計画地の地形は、火山灰台地の中央に谷底平野（谷地田）が分布している。

計画地周辺の地形は、火山灰台地が広がっており、江川等の河川沿いに谷底平野（谷地田）が分布している。また、荒川に沿って谷底平地（河川氾濫原）や後背湿地が分布している。

2) 地質の状況

計画地及び周辺の表層地質は、図 3.2-8 に示すとおりである。

計画地の地質は、火山性岩石（ローム）の中央に未固結堆積物（泥質堆積物（谷地田の腐植土））が分布している。

計画地周辺の地質は、火山性岩石（ローム）が広がっており、江川等の河川沿いに未固結堆積物（泥質堆積物）が分布している。また、荒川に沿って未固結堆積物（砂泥堆積物・砂質堆積物）が分布している。

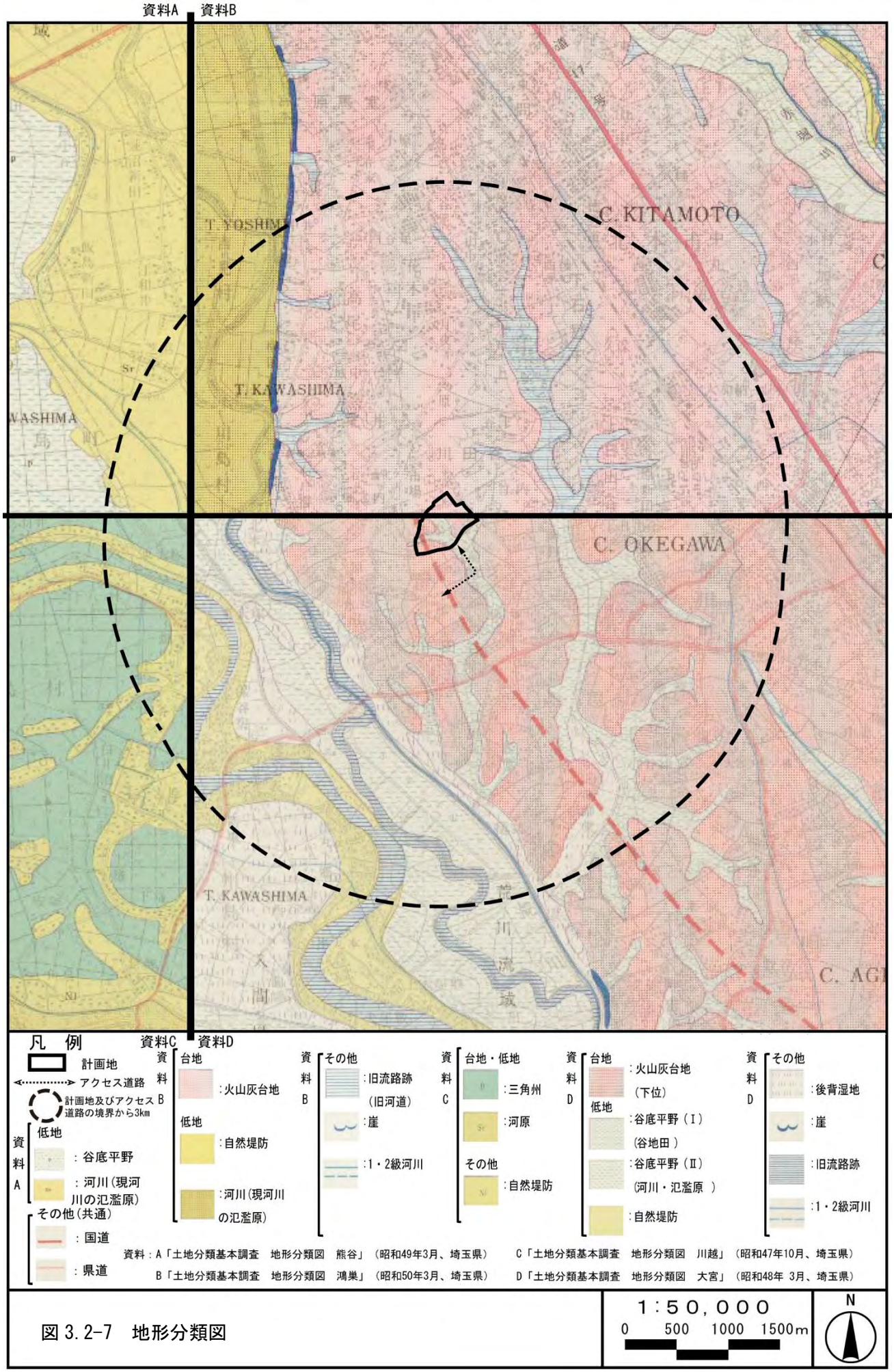

資料A
資料B
T. YOSHIMI
C. KITAMOTO
T. KAWASHIMA
C. OKEGAWA
T. KAWASHIMA
凡　例
計画地
アクセス道路
計画地及びアクセス道路の境界から3km
資料A
低地
：谷底平野
：河川（現河川の氾濫原）
その他（共通）
：国道
：県道
資料C
資料D
資料B
台地
：火山灰台地
低地
：自然堤防
：河川（現河川の氾濫原）
資料B
その他
：旧流路跡（旧河道）
：崖
：1・2級河川
資料C
台地・低地
：三角州
：河原
その他
：自然堤防
資料D
台地
：火山灰台地（下位）
低地
：谷底平野（Ⅰ）（谷地田）
：谷底平野（Ⅱ）（河川・氾濫原）
：自然堤防
資料D
その他
：後背湿地
：崖
：旧流路跡
：1・2級河川
資料：A「土地分類基本調査　地形分類図　熊谷」（昭和49年3月、埼玉県）
B「土地分類基本調査　地形分類図　鴻巣」（昭和50年3月、埼玉県）
C「土地分類基本調査　地形分類図　川越」（昭和47年10月、埼玉県）
D「土地分類基本調査　地形分類図　大宮」（昭和48年 3月、埼玉県）
1：50，000
0　500　1000　1500m
N

図 3.2-7　地形分類図

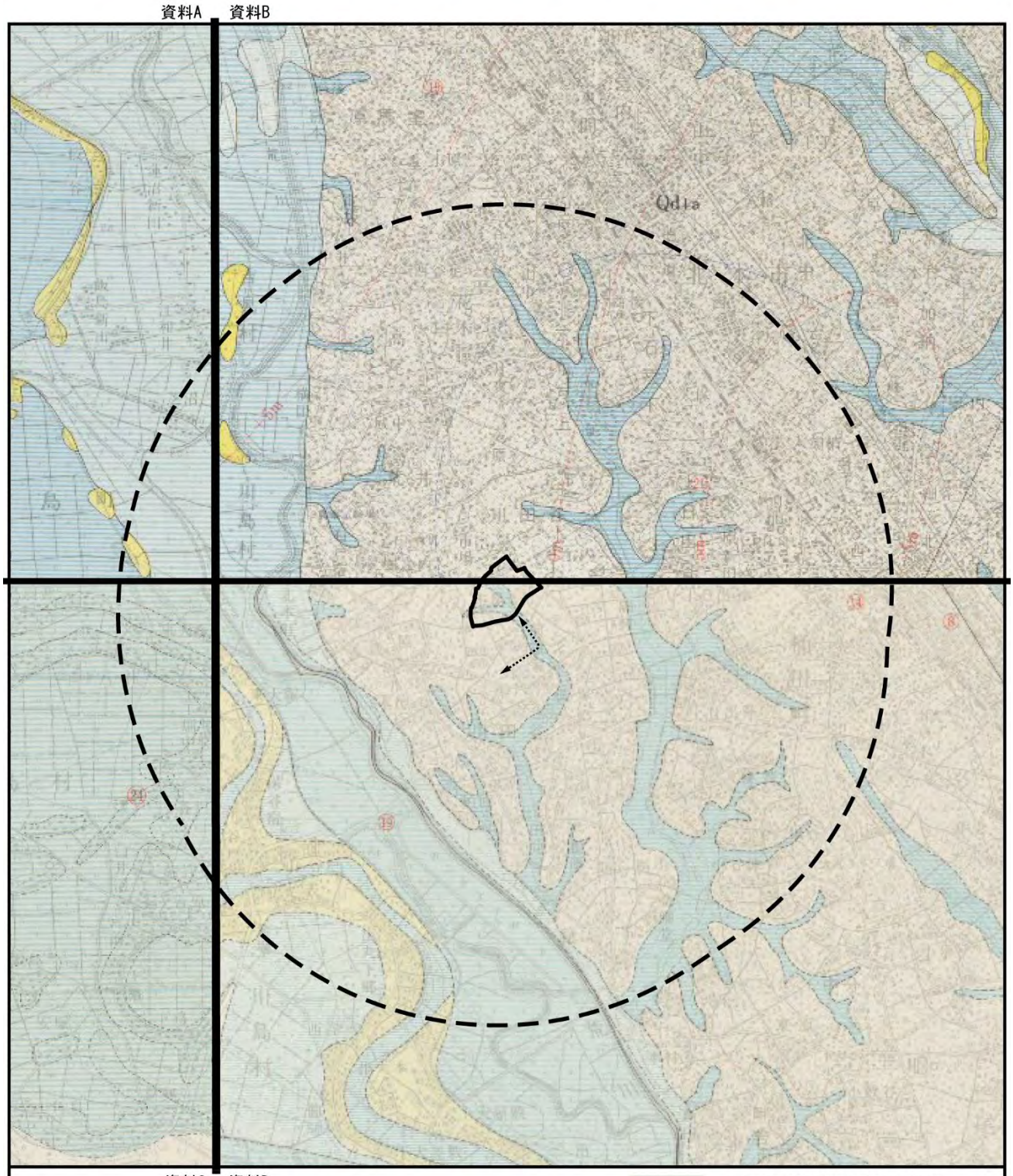

資料A
資料B
資料C
資料D
Qd1a
凡　例
計画地
アクセス道路
計画地及びアクセス道路の境界から3km
火山性岩石
Qd
：ローム（資料B・D）
未固結堆積物
Qa
：砂泥堆積物（河道・氾濫原）（資料A・B・D）
Qa
：砂泥堆積物（旧流路跡）（資料B・D）
Qa
：砂質泥堆積物（自然堤防）（資料A・B・D）
Qa
：泥質堆積物　（谷地田・後背湿地の腐植工）（資料A）
Qa
：泥質堆積物（後背湿地の腐植土）（資料B・D）
Qa
：泥質堆積物（後背湿地）（資料B）
Qa
：泥質堆積物（谷地田の腐植土）（資料D）
Qa
：泥質堆積物（解折谷地田、後背湿地：腐植土を持つ二次堆積ローム）（資料B）
：砂泥（資料C）
：泥（資料C）
資料：A「土地分類基本調査　表層地質図　熊谷」（昭和49年3月、埼玉県）　C「土地分類基本調査　表層地質図　川越」（昭和47年10月、埼玉県）
B「土地分類基本調査　表層地質図　鴻巣」（昭和50年3月、埼玉県）　D「土地分類基本調査　表層地質図　大宮」（昭和48年 3月、埼玉県）
1：50，000
0　500　1000　1500m
N

図 3.2-8　表層地質図

(5) 動物の生息、植物の生育、植生及び生態系の状況

1) 動物

① 動物相の状況

計画地が位置する桶川市は、埼玉県東部に広がる大宮台地北部の一角を占め、市域の東側には元荒川、西側には荒川が流れており、豊かな自然環境を保っている。

計画地及び周辺の動物の確認状況は、表 3.2-22 に示すとおりである。計画地が位置する桶川市においては、「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和 62 年 3 月、桶川市）により 205 種の動物種が確認されている。また、計画地の北側に近接し一連の自然環境を有すると考えられる北本市においては、「北本の動植物誌」（平成 7 年 2 月、北本市）により 2,217 種の動物種が確認されている。このほか、動物の分布調査が行われた「第 3 回、第 5 回、第 6 回自然環境保全基礎調査」（昭和 62 年 3 月～平成 16 年 3 月、環境庁～環境省自然環境局生物多様性センター）により、桶川市が含まれる 2 次メッシュ（533974 上尾及び 543904 鴻巣）においては、136 種の動物種が確認されている。

表 3.2-22　計画地及び周辺の動物種の確認状況

単位：種数

分　類		「桶川市史　第八巻　自然地誌編」による確認種数	「北本の動植物誌」による確認種数	「自然環境保全基礎調査」による確認種数
脊椎動物	哺乳類	13	13	2
	鳥類	134	163	75
	爬虫類	14	10	0
	両生類	15	7	1
	魚類	29	27	0
無脊椎動物	昆虫類	－	1,826	58
	甲殻類	－	14	－
	多足類	－	33	－
	クモ類	－	91	－
	軟体動物	－	28	0
	その他（扁形動物等）	－	5	－
合　計		205	2,217	136

資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和 62 年 3 月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成5年2月、北本市教育委員会）
「第6回自然環境保全基礎調査　種の多様性調査　哺乳類分布調査」
（平成16年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）
「第3回自然環境保全基礎調査　動植物分布調査　鳥類」（昭和63年、環境庁）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（両生類・爬虫類）」
（平成13年10月、環境省自然環境局生物多様性センター）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（淡水魚類）」
（平成14年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（昆虫類）」
（平成14年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（陸産及び淡水産貝類）」
（平成14年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）

② 貴重な動物の分布状況

「桶川市史」、「北本の動植物誌」、「自然環境基礎調査」により計画地及び周辺で確認された動物種のうち、表 3.2-23 の貴重な動物種の選定基準に該当する動物の一覧を表 3.2-24～表 3.2-31 に示す。

なお、「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」（平成 30 年 3 月、埼玉県）では、地帯区分の考え方が導入されている。このため、ここでは、地帯区分のうち計画地及び周辺が位置する「荒川以西」及び「大宮台地」におけるレッドリスト種として整理された動物種を対象とした。

また、貴重な動物の分布状況としては、「第 4 回自然環境保全基礎調査　埼玉県自然環境情報図」（平成 7 年、環境庁）において確認されている川島町内のサギ類の集団ねぐらは、図 3.2-9 に示すとおりである。埼玉県環境部みどり自然課へのヒアリング（令和 4 年 2 月）によると、計画地から 1.5km 以内にオオタカの県営巣登録地が 3 か所存在している。

表 3.2-23　貴重な動物種の選定基準

	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」 （昭和 25 年 5 月、法律第 214 号）	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 （平成 4 年 6 月、法律第 75 号）	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特一：特定第一種国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「環境省レッドリスト 2020」 （令和 2 年 3 月、環境省）、 「第 5 次レッドリスト（鳥類及び爬虫類・両生類）」 （令和 8 年 3 月、環境省）	EX ：絶滅 EW ：野生絶滅 CR ：絶滅危惧ⅠA 類 EN ：絶滅危惧ⅠB 類 VU ：絶滅危惧Ⅱ類 NT ：準絶滅危惧 DD ：情報不足 LP ：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック動物編 2018（第 4 版）」 （平成 30 年 3 月、埼玉県）	EX ：絶滅 EW ：野生絶滅 CR ：絶滅危惧ⅠA 類 EN ：絶滅危惧ⅠB 類 VU ：絶滅危惧Ⅱ類 NT1：準絶滅危惧1型 NT2：準絶滅危惧2型 DD ：情報不足 LP ：絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 （平成 12 年 3 月、埼玉県条例第 11 号）	希少：県内希少野生動植物種

表 3.2-24(1)　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（鳥類）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④		⑤
					荒川以西	大宮台地	
キジ	ウズラ（繁・越）			VU	CR	CR	
カモ	マガン（越）	国天			CR	EX	
	トモエガモ（越）			DD	VU	VU	
	ホシハジロ			NT			
	キンクロハジロ			VU			
	スズガモ			NT			
ハト	シラコバト（繁・越）	国天			EN	EN	
サギ	ヨシゴイ（繁）			DD	VU	VU	
	ゴイサギ			VU			
	ササゴイ（繁）				EN	CR	
	アマサギ（繁）				LP	LP	
	チュウサギ（繁）			NT	VU	NT2	
	コサギ（繁）				NT2	NT2	
クイナ	ヒクイナ（繁）			NT	CR	CR	
	バン（繁）				VU	NT2	
	オオバン（繁）				DD	NT1	
	クイナ（越）				VU	VU	
カッコウ	カッコウ（繁）				NT2	NT2	
ヨタカ	ヨタカ（繁）			NT	CR	EX	
アマツバメ	ハリオアマツバメ			VU			
チドリ	ケリ（繁）			DD			
	ケリ（越）				EN	EN	
	ムナグロ			VU			
	イカルチドリ（繁）				NT1		
	シロチドリ（繁）			VU	LP		
	タゲリ（越）				NT2	NT2	
シギ	イソシギ（繁）				NT2	VU	
	トウネン			NT			
	キョウジョシギ			NT			
	ヤマシギ（越）				NT2	VU	
	タシギ（越）				NT2	NT2	
	タカブシギ			VU			
タマシギ	タマシギ（繁・越）			DD	CR	CR	
カモメ	ウミネコ			VU			
	コアジサシ（繁）			EN	CR	CR	
タカ	ハチクマ（繁）			DD	EX		
	トビ（繁）				DD	DD	
	ツミ（繁）				NT2	NT2	
	チュウヒ（越）		国内	EN	EN	EN	
	オオタカ（繁）			NT	VU	VU	
	オオタカ（越）				NT2	NT2	
	サシバ（繁）			VU	CR	EX	
	ノスリ（繁）				DD	DD	
	ノスリ（越）				NT2	NT2	
フクロウ	オオコノハズク（繁）				EX	EX	
	オオコノハズク（越）				DD	DD	
	フクロウ（繁）				EN	EN	
	フクロウ（越）				NT2	VU	
	アオバズク（繁）				VU	EN	
	トラフズク（越）				EN	EN	
	コミミズク（越）				VU	VU	
カワセミ	カワセミ（繁）				LP	LP	

表 3.2-24(2)　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（鳥類）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④		⑤
					荒川以西	大宮台地	
キツツキ	アオゲラ（繁）				NT2	VU	
	アリスイ（越）				NT2	NT2	
ハヤブサ	チョウゲンボウ（繁）				NT2	NT2	
	ハヤブサ（越）		国内	NT	VU	VU	
センニュウ	オオセッカ（越）		国内	EN	DD	DD	
サンショウクイ	サンショウクイ（繁）				EX	EX	
カササギヒタキ	サンコウチョウ（繁）				EX	EX	
カラス	オナガ			NT			
シジュウカラ	ヤマガラ（繁）				CR		
ツバメ	コシアカツバメ（繁）				DD		
ヨシキリ	オオヨシキリ（繁）				NT2	NT2	
	コヨシキリ（繁）				EN	EN	
ヒタキ	トラツグミ（繁）				CR	CR	
	クロツグミ（繁）				EX		
	コサメビタキ（繁）				EX	EX	
	ルリビタキ（越）				NT2	NT2	
セキレイ	ビンズイ			NT			
アトリ	コイカル（繁）					DD	
	ベニマシコ（越）				NT2	NT1	
ホオジロ	ホオジロ（繁）				NT2	NT2	
	ホオアカ（繁）				CR	EX	
	ミヤマホオジロ（越）				NT1	NT1	
	クロジ（越）				NT2	NT2	
	コジュリン（越）			EN	VU	VU	
28 科	71 種	2 種	3 種	29 種	58 種	53 種	0 種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
注3)④における分類に従い、種名の（繁）は「繁殖鳥」、（越）は「越冬鳥」を示す。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）
「第3回自然環境保全基礎調査　動植物分布調査　鳥類」（昭和63年、環境庁）

表 3.2-25　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（爬虫類）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④		⑤
					荒川以西	大宮台地	
カナヘビ	ニホンカナヘビ					NT2	
ナミヘビ	アオダイショウ				NT2	NT1	
	ジムグリ				VU	EN	
	シマヘビ				VU	VU	
	ヒバカリ				NT2	VU	
	ヤマカガシ				NT1	VU	
	ニホンマムシ				NT1	EN	
2 科	7 種	0 種	0 種	0 種	6 種	7 種	0 種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（両生類・爬虫類）」
（平成13年10月環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.2-26　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（両生類）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④		⑤
					荒川以西	大宮台地	
ヒキガエル	アズマヒキガエル				VU	NT1	
アカガエル	トウキョウダルマガエル			NT	NT1	VU	
	ツチガエル				CR	CR	
	ニホンアカガエル				VU	EN	
アオガエル	シュレーゲルアオガエル				NT1	VU	
3科	5種	0種	0種	1種	5種	5種	0種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
資料:「桶川市史　第八巻　自然地誌編」(昭和62年3月、桶川市)
「北本の動植物誌」(平成7年2月、北本市教育委員会)
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（両生類・爬虫類)」
(平成13年10月、環境省自然環境局生物多様性センター)

表 3.2-27　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（魚類）

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ウナギ	ニホンウナギ			EN	NT2	
コイ	キンブナ			VU	VU	
	ヤリタナゴ			NT	CR	
ドジョウ	ホトケドジョウ			EN	CR	
メダカ	ミナミメダカ			VU	NT2	
4科	5種	0種	0種	5種	5種	0種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
注3)魚類では、地帯別評価は採用していない。
資料:「桶川市史　第八巻　自然地誌編」(昭和62年3月、桶川市)
「北本の動植物誌」(平成7年2月、北本市教育委員会)
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（淡水魚類)」
(平成14年3月、環境省自然環境局生物多様性センター)

表 3.2-28(1)　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（昆虫類）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④		⑤
					荒川以西	大宮台地	
シロチョウ	ツマグロキチョウ			EN	EX	EX	
シジミチョウ	ゴイシシジミ				NT2	NT2	
	ミドリシジミ				NT1	NT1	
	オオミドリシジミ				CR	CR	
	コツバメ				CR	EX	
タテハチョウ	オオウラギンスジヒョウモン				NT2	NT2	
	アサマイチモンジ					CR	
	ミスジチョウ				VU	EX	
	ヒオドシチョウ				VU	VU	
	ジャノメチョウ				NT2	EX	
セセリチョウ	ミヤマセセリ				CR	EX	
	ギンイチモンジセセリ			NT	NT2	NT2	
	ホソバセセリ				CR	EX	
	コチャバネセセリ				NT2	NT2	
	オオチャバネセセリ				NT2	NT2	
ヤママユガ	オナガミズアオ			NT	LP	LP	
	ヤママユ				EN	EN	
ヤガ	ハスオビアツバ					NT1	
	コシロシタバ			NT			
ツリアブ	タイワンハラボソツリアブ				NT2	NT2	
ヤドリバエ	キイロコガネヤドリバエ				NT2	NT2	
ミズスマシ	オナガミズスマシ					EN	
	コオナガミズスマシ			VU	VU		
コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ			VU	CR	CR	
ゲンゴロウ	キベリクロヒメゲンゴロウ			NT	NT1	NT1	
	ホンシュウオオイチモンジシマゲンゴロウ			EN	VU	VU	
オサムシ	カワラゴミムシ					CR	
	オオサカアオゴミムシ			DD	EN	EN	
	イグチケブカゴミムシ			NT		NT1	
セスジガムシ	セスジガムシ			EN		EN	
ガムシ	シジミガムシ			EN		DD	
エンマムシ	ルリエンマムシ					NT2	
チビシデムシ	カントウコチビシデムシ				NT1	NT1	
ホタル	ヘイケボタル				NT1	VU	
テントウムシ	ムモンチャイロテントウ				NT2	NT1	
カミキリムシ	ヨツボシカミキリ			EN		EN	
	アカアシオオアオカミキリ					VU	
	シロスジカミキリ				VU	VU	
ラクダムシ	ラクダムシ					VU	
ヒロバカゲロウ	プライヤーヒロバカゲロウ					NT2	
カマキリモドキ	ヒメカマキリモドキ				NT2	NT2	
セミ	ハルゼミ				VU	VU	
ミズムシ	ミゾナシミズムシ			NT	VU	VU	
	ミヤケミズムシ			NT	CR	CR	
コバンムシ	コバンムシ			EN	CR		
アメンボ	オオアメンボ				NT2	NT1	
	ババアメンボ			NT	NT1	NT1	
	エサキアメンボ			NT	NT1	NT2	
サシガメ	キイロサシガメ					VU	

表 3.2-28(2)　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（昆虫類）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④		⑤
					荒川以西	大宮台地	
マツムシ	スズムシ				NT1	VU	
ヒバリモドキ	エゾスズ				NT1	NT1	
キリギリス	ヒメクサキリ					VU	
	オナガササキリ				NT1	VU	
クツワムシ	クツワムシ				EN	EN	
ツユムシ	エゾツユムシ				NT1	NT1	
モノサシトンボ	オオモノサシトンボ			EN	EX	EX	
イトトンボ	キイトトンボ				NT2	EN	
	ベニイトトンボ			NT	EN	EN	
ヤンマ	サラサヤンマ				NT2	NT2	
	アオヤンマ			NT	VU	VU	
	ネアカヨシヤンマ			NT	NT2	NT2	
	マルタンヤンマ				NT2	NT2	
サナエトンボ	アオサナエ				NT1		
	ナゴヤサナエ			VU	VU	VU	
	ホンサナエ				VU	EN	
トンボ	ヒメアカネ				VU	VU	
	ハラビロトンボ				NT2	NT2	
	ヨツボシトンボ				VU	VU	
37 科	68 種	0 種	0 種	23 種	53 種	64 種	0 種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（昆虫類）」
（平成14年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）

表 3.2-29　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（甲殻類）

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ヌマエビ	ヌマエビ				NT2	
サワガニ	サワガニ				NT2	
2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	2 種	0 種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
注3)甲殻類では、地帯別評価は採用していない。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）

表 3.2-30　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（クモ目）

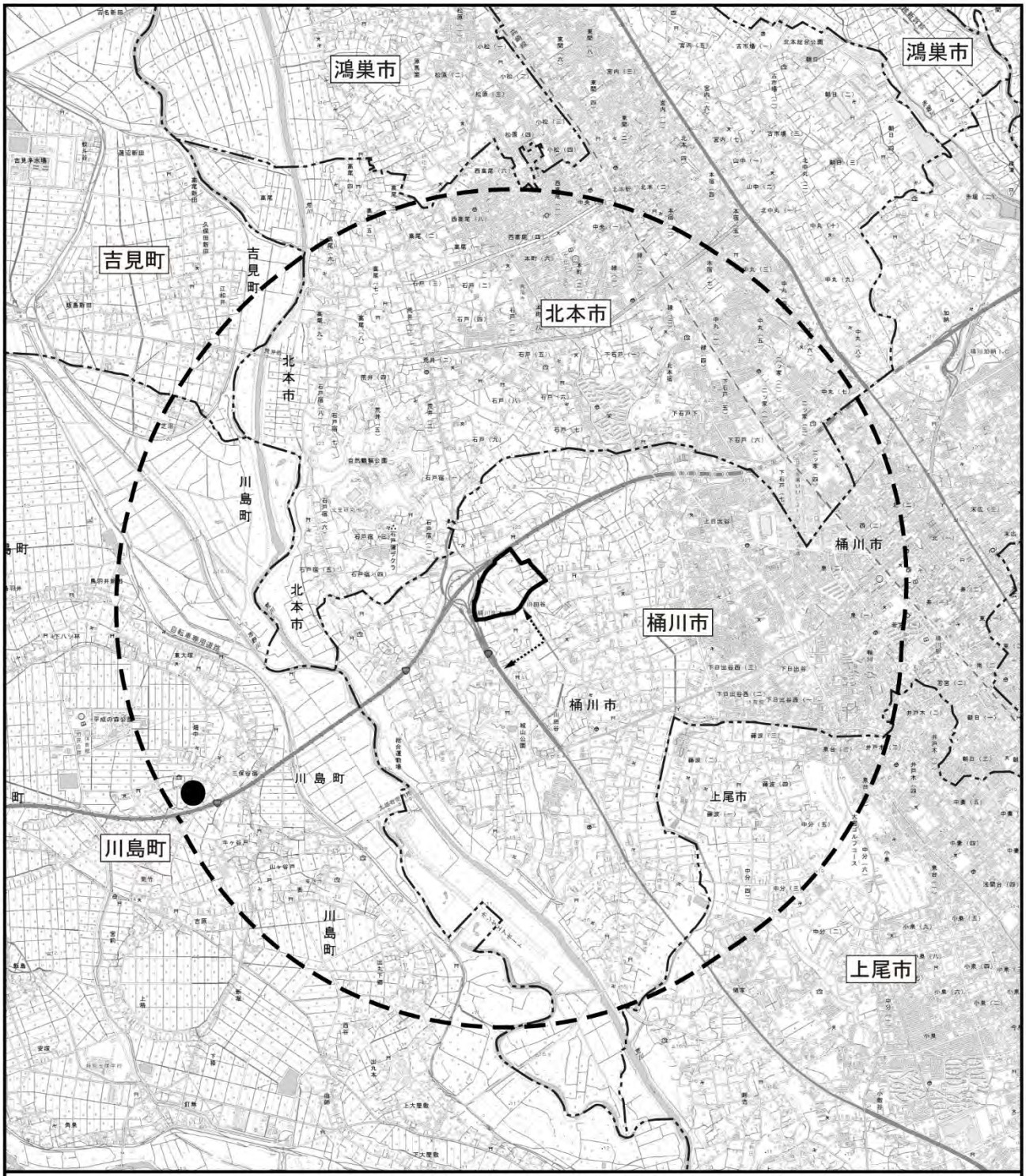
科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④ 荒川以西	④ 大宮台地	⑤
コガネグモ	オオトリノフンダマシ					NT1	
1科	1種	0種	0種	0種	0種	1種	0種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）

表 3.2-31　計画地及び周辺で確認された貴重な動物（軟体動物）

科名	種名	選定基準					
		①	②	③	④ 荒川以西	④ 大宮台地	⑤
タニシ	マルタニシ			VU	VU	VU	
モノアラガイ	モノアラガイ			NT	DD	NT2	
カワコザラガイ	カワコザラガイ				VU	VU	
キセルガイ	ナミコギセル					LP	
イシガイ	イシガイ				NT2		
	ドブガイ				NT2	NT2	
5科	6種	0種	0種	2種	5種	5種	0種

注1)選定基準①～⑤は、表3.2-23に対応する。
注2)種の配列については、④に準拠した。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）
「第5回自然環境保全基礎調査　生物多様性調査　動物分布調査（陸産及び淡水産貝類）」
（平成14年3月、環境省自然環境局生物多様性センター）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- サギ類の集団ねぐら

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

図 3.2-9　貴重な動物の分布状況

2) 植物

① 植生の状況

計画地が位置する桶川市は、埼玉県東部に広がる大宮台地北部の一角を占め、市域の東側には元荒川、西側には荒川が流れており、豊かな自然環境を保っている。

「埼玉県レッドデータブック植物編（第 4 版）2024」（令和 7 年 3 月、埼玉県）によると、計画地は、標高 50m 未満の「大宮台地」に地帯区分されている。

計画地及び周辺の現存植生は、図 3.2-10 に示すとおりである。計画地は、主に畑雑草群落、緑の多い住宅地、路傍・空地雑草群落、水田雑草群落及び果樹園で構成されている。また、計画地周辺には、上記のほかクヌギーコナラ群集や市街地等が分布している。

② 植物相の状況

計画地及び周辺の植物の確認状況は、表 3.2-32 に示すとおりである。計画地が位置する桶川市においては、「桶川市史　第八巻　自然地誌編」及び「桶川市史　第九巻　補遺編」（平成 2 年 12 月、桶川市）により 936 種の植物種が確認されている。また、計画地の北側に近接し一連の自然環境を有すると考えられる北本市においては、「北本の動植物誌」により 682 種の植物種が確認されている。

表 3.2-32　計画地及び周辺の植物の確認状況

単位：種数

分　類				「桶川市史　第八巻　自然地誌編」及び「桶川市史　第九巻　補遺編」による確認種数	「北本の動植物誌」による確認種数
シダ類				43	39
種子植物				765	642
	裸子植物			3	4
	被子植物			762	638
		単子葉類		212	211
		双子葉類		550	427
			離弁花類	328	270
			合弁花類	222	157
コケ類				28	1
菌類				100	－
合計				936	682

資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「桶川市史　第九巻　補遺編」（平成2年12月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）

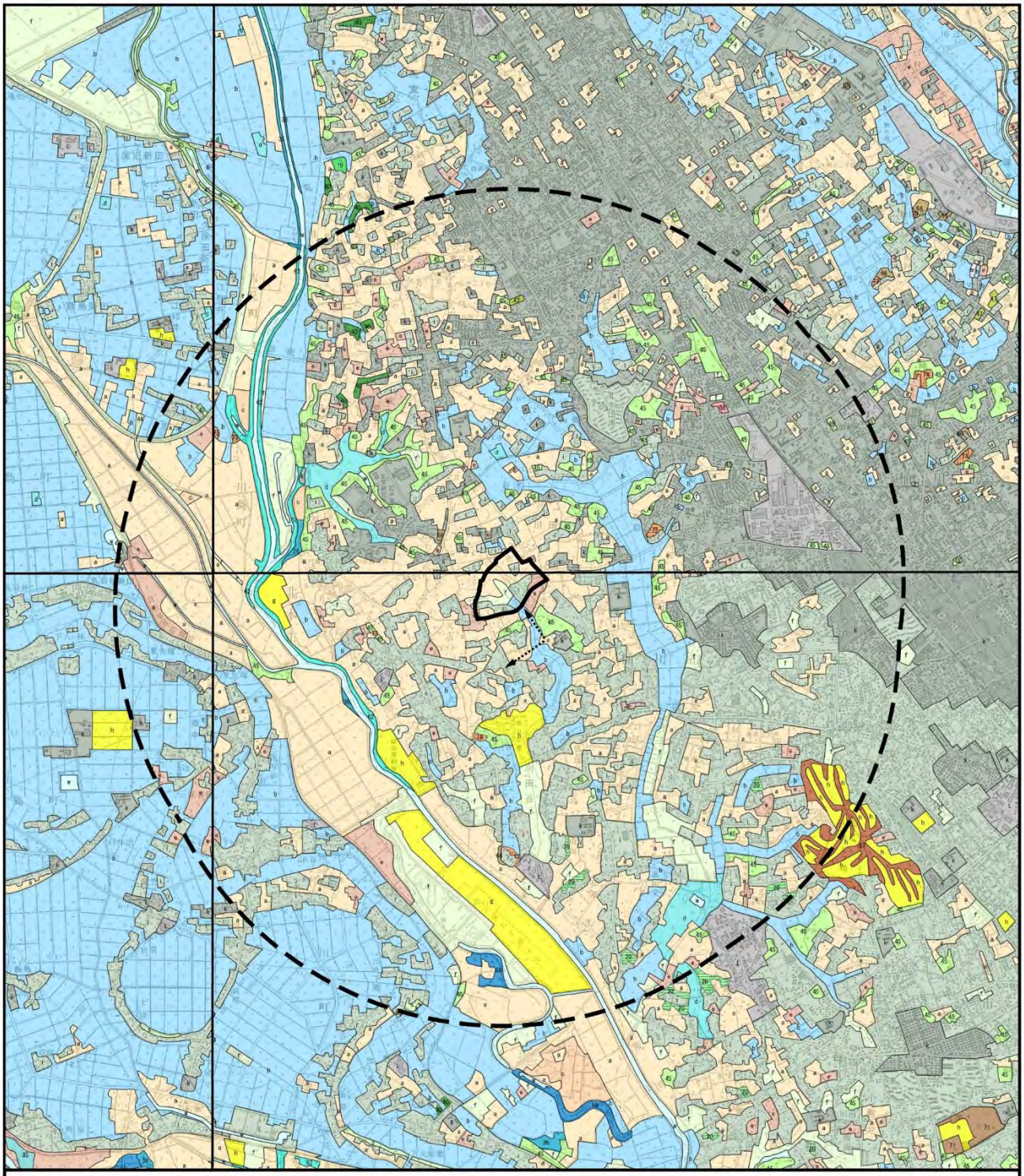

凡　例
計画地
計画地及びアクセス道路の境界から3km
アクセス道路
36 320200 ヤナギ低木群落(VI)
40 400101 ケヤキーシラカシ群落
20 400104 シラカシ屋敷林(VII)
44 410101 クリーコナラ群集
45 410102 クヌギーコナラ群集
47 410400 アカシデーイヌシデ群落
56 460000 伐採跡地群落(VII)
59 470400 ヨシクラス
62 470502 オギ群集
66 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植林
67 540200 アカマツ植林
101 540902 ニセアカシア群落
73 550100 モウソウチク林
74 550200 マダケ・ハチク林
h 560100 ゴルフ場・芝地
g 560200 牧草地
f 570100 路傍・空地雑草群落
c 570101 放棄畑雑草群落
e 570200 果樹園
a 570300 畑雑草群落
b 570400 水田雑草群落
d 570500 放棄水田雑草群落
k 580100 市街地
i 580101 緑の多い住宅地
L 580300 工場地帯
m 580400 造成地
w 580600 開放水域
s 580800 残存・植栽樹群地
資料:「自然環境調査 Web-GIS 1/25,000 植生図」(平成11年～、環境省自然環境局生物多様性センター))
1:50,000
0 500 1000 1500m
N

図 3.2-10　植生図

③ 貴重な植物の分布状況

貴重な植物種の選定基準は、表 3.2-33 に示すとおりである。計画地及び周辺で確認された植物種のうち、貴重な植物種の選定基準に該当する植物種の一覧を表 3.2-35(1)～(3)に示す。天然記念物の分布は、「(7)文化財その他の生活環境の状況 1)指定文化財」の表 3.2-45 及び図 3.2-14（p.145～146 参照）に示す。

また、「埼玉県レッドデータブック植物編（第 4 版）2024」では、表 3.2-34 を群落の価値を示す選定基準とし、関係市町において表 3.2-36(1)～(2)に示すとおり希少な植物群落が選定されている。

表 3.2-33　貴重な植物種の選定基準

	文献及び法律名	選定基準となる区分
①	「文化財保護法」（昭和 25 年 5 月、法律第 214 号） 「埼玉県文化財保護条例」 (昭和30年10月、埼玉県条例第46号) 「桶川市文化財保護条例」 (昭和32年9月、桶川市条例第22号)	特天：国指定特別天然記念物 国天：国指定天然記念物 県天：県指定天然記念物 市天：市指定天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 4 年 6 月、法律第 75 号）	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特一：特定第一種国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「環境省第 5 次レッドリスト（植物、菌類)」 (令和 7 年 3 月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA 類 EN：絶滅危惧ⅠB 類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
④	「埼玉県レッドデータブック植物編（第 4 版）2024」 (令和 7 年 3 月、埼玉県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧ⅠA 類 EN：絶滅危惧ⅠB 類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」 (平成 12 年 3 月、埼玉県条例第 11 号)	希少：県内希少野生動植物種

表 3.2-34　希少な植物群落の選定基準

「埼玉県レッドデータブック植物編（第 4 版）2024」（令和 7 年 3 月、埼玉県）における希少な植物群落の選定基準
A：原生林もしくはそれに近い自然林
B：国内若干地域に分布するが、極めてまれな植物群落または個体群
C：比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落または個体群
D：砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的なもの
E：郷土景観を代表する植物群落で、とくにその群落の特徴が典型的なもの
F：過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G：乱獲その他人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなる恐れのある植物群落または個体群
H：その他、学術上重要な植物群落または個体群
I：歴史、宗教、文化、生業と関わりや伝統的な管理によって成立している植物群落又は個体群

表 3.2-35(1)　計画地及び周辺で確認された貴重な植物

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ミズニラ	ミズニラ			NT	NT	
オシダ	メヤブソテツ				NT	
デンジソウ	デンジソウ			NT	CR	希少
サンショウモ	サンショウモ			NT	NT	
アカウキクサ	アカウキクサ			EN	DD	
	オオアカウキクサ			EN	EX	
イラクサ	トキホコリ			NT	NT	
ヤドリギ	マツグミ				EN	
タデ	ホソバイヌタデ			NT	VU	
	シロバナサクラタデ				NT	
	ヌカボタデ			VU	EN	
	ノダイオウ			VU	EN	
ナデシコ	カワラナデシコ				VU	
マツブサ	チョウセンゴミシ				CR	
キンポウゲ	イチリンソウ				NT	
	カザグルマ			NT	VU	
	オキナグサ			NT	EN	
	ノカラマツ			VU	NT	
メギ	イカリソウ				NT	
ツヅラフジ	ツヅラフジ				VU	
スイレン	ジュンサイ				EX	
	コウホネ				NT	
オトギリソウ	コオトギリ				CR	
	アゼオトギリ			EN	EN	
アブラナ	ミズタガラシ				DD	
	コイヌガラシ			NT		
ユキノシタ	タコノアシ			NT	NT	
バラ	カワラサイコ				NT	
マメ	タヌキマメ				EW	
	レンリソウ				EN	
トウダイグサ	ノウルシ			NT	NT	
スミレ	サクラスミレ				VU	
ミソハギ	ヒメミソハギ				NT	
ヒシ	ヒシ				NT	
	オニビシ				EN	
アリノトウグサ	フサモ				VU	
セリ	オオバチドメ				NT	
イチヤクソウ	ウメガサソウ				VU	
	シャクジョウソウ				NT	
ツツジ	レンゲツツジ				EN	
サクラソウ	ノジトラノオ			VU	EN	
	ヌマトラノオ				NT	
	クサレダマ				CR	
	サクラソウ			NT	VU	希少
リンドウ	センブリ				VU	
	イヌセンブリ			NT	EX	
キョウチクトウ	チョウジソウ			NT	VU	
ガガイモ	コカモメヅル				VU	
アカネ	ハナムグラ			VU	VU	
	ホソバノヨツバムグラ				NT	
クマツヅラ	クマツヅラ				VU	
シソ	ヒイラギソウ			VU	VU	
	ヒメハッカ			NT	CR	
	ミゾコウジュ			NT		

表 3.2-35(2)　計画地及び周辺で確認された貴重な植物

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ゴマノハグサ	オオアブノメ			VU	EN	
	ママコナ				VU	
	クチナシグサ				VU	
ハマウツボ	ナンバンギセル				VU	
タヌキモ	タヌキモ			NT	CR	
オミナエシ	オミナエシ				CR	
キキョウ	バアソブ			VU	EN	
	キキョウ			NT	CR	
キク	カワラヨモギ				EN	
	タウコギ				NT	
	キクタニギク注)			NT	NT	
	フジバカマ			NT	EN	
	アキノハハコグサ			EN	CR	
	オグルマ				NT	
	オナモミ			VU	DD	
オモダカ	ヘラオモダカ				NT	
	アギナシ			NT	EN	
	ウリカワ				NT	
トチカガミ	クロモ				NT	
	トチカガミ			NT	VU	
	ミズオオバコ			NT	VU	
	セキショウモ				VU	
ヒルムシロ	エビモ				NT	
	ヒルムシロ				NT	
ユリ	ヒメニラ				NT	
	アマナ				NT	
	カタクリ				NT	
	コオニユリ				VU	
	ホトトギス				EN	
	ヤマホトトギス				VU	
アヤメ	ノハナショウブ				EN	
	カキツバタ			NT	CR	
イネ	ムツオレグサ				VU	
	ウキガヤ				VU	
サトイモ	ウラシマソウ				NT	
ミクリ	ミクリ			NT	NT	
	ヤマトミクリ			NT	EN	
カヤツリグサ	オニナルコスゲ				EN	
	カンエンガヤツリ			VU	VU	
	コアゼテンツキ				CR	
	アゼテンツキ				EN	
	ヒメホタルイ				VU	
	タタラカンガレイ				VU	
	タイワンヤマイ				EN	
ラン	エビネ			NT	VU	
	ギンラン				NT	
	キンラン			NT	VU	
	ササバギンラン				NT	
	サイハイラン				NT	
	シュンラン				NT	
	クマガイソウ			VU	CR	
	クモキリソウ				NT	

表 3.2-35(3)　計画地及び周辺で確認された貴重な植物

科名	種名	選定基準				
		①	②	③	④	⑤
ラン	シラン			NT	EN	
	エビネ			NT	VU	
	ヤマトキソウ				EX	
イグチ	ブドウニガイグチ				VU	
52 科	110 種	0 種	0 種	44 種	108 種	2 種

注1）別名は、アワコガネギク。
注2）選定基準①～⑤は、表3.2-33に対応する。
注3）種の配列については、④に準拠した。
資料：「桶川市史　第八巻　自然地誌編」（昭和62年3月、桶川市）
「桶川市史　第九巻　補遺編」（平成2年12月、桶川市）
「北本の動植物誌」（平成7年2月、北本市教育委員会）

表 3.2-36(1)　計画地及び周辺で確認された希少な植物群落　（件数）

	群落名	選定基準	桶川市	鴻巣市	上尾市	北本市	川島町	吉見町
木本群落	アラカシ群落	A･E						1
	シラカシ群落	E･H	1	2	3	1		
	スダジイ群落	A･C･E･I						2
	アカマツ群落	E･G･H･I	1		1	1		1
	アカシデ群落	D･E			1			
	イヌシデ群落	E				1		
	クヌギ群集	E･F･I	2		1		2	
	ケヤキ群落	A･D･E･I	3	2		3	1	1
	コナラ群落	A･E･F･I	5		6	7		3
	アカメヤナギ群落	D			1		2	
	ヤナギ類低木林	D	1	1	1	1		
	ハンノキ林	D･E･H･I		1	1		2	2
	エノキ林	D		2	1		1	1
草本群落	イヌセンブリ群落	－	消滅			消滅		
	コツブヌマハリイ群落	B･D･G	1					
	オニナルコスゲ群落	D･G			1			
	サクラソウ群落	B･D･E･G･H･I	1					
	タコノアシ群落	D				1		1
	チョウジソウ群落	D･G･I	1		1			
	ヌマトラノオ群落	D･E					1	
	ノカラマツ群落	D･E	1					
	ハナムグラ群落	B･D･G			1		1	
	ヘラオモダカ群落	D･E			1	1		
	ミクリ群落	D･E			1	1		
	アサザ群落	D･E･G･I				1		
	コウホネ群落	D･E･G	1		2	1		
	ジュンサイ群落	－	消滅					
	ノウルシ群落	D･E･I	1					1
	エビモ群落	D		1	1			
	コウガイモ群落	D					1	
	セキショウモ群落	D		1				
	タヌキモ群落	G				1		
	カワラケツメイ群落	B･D･G			1			
	アマナ群落	D･G･I			1			
	カタクリ群落	D･E･G･I				1		
	キツネノカミソリ群落	D･E･G			1		1	
	コギシギシ群落	D		1				
	コイヌガラシ群落	D･E		1				
	ハタケテンツキ群落	B･G･E		2				

表 3.2-36(2)　計画地及び周辺で確認された希少な植物群落　（件数）

	群落名	選定基準	桶川市	鴻巣市	上尾市	北本市	川島町	吉見町
群落複合	[河辺植生]江川下流域湿性植物群落（桶川市・上尾市）	E･I	1		1			
	[河辺植生]三ツ又沼及びその周辺湿地の植物群落（川島町・上尾市・川越市）	E･I			1		1	
	[中間・低層湿原植生]高尾宮岡の景観地（北本市）	E･I				1		
	[水生植生]荒川旧流路の水生植物群落（鴻巣氏・北本市・吉見町・桶川市）	E･I	1	1		1		1

注）選定基準A～Hは、表3.2-36に対応する。
資料：「埼玉県レッドデータブック植物編（第4版）2024」（令和7年3月、埼玉県）

④ 巨樹・巨木林の分布状況

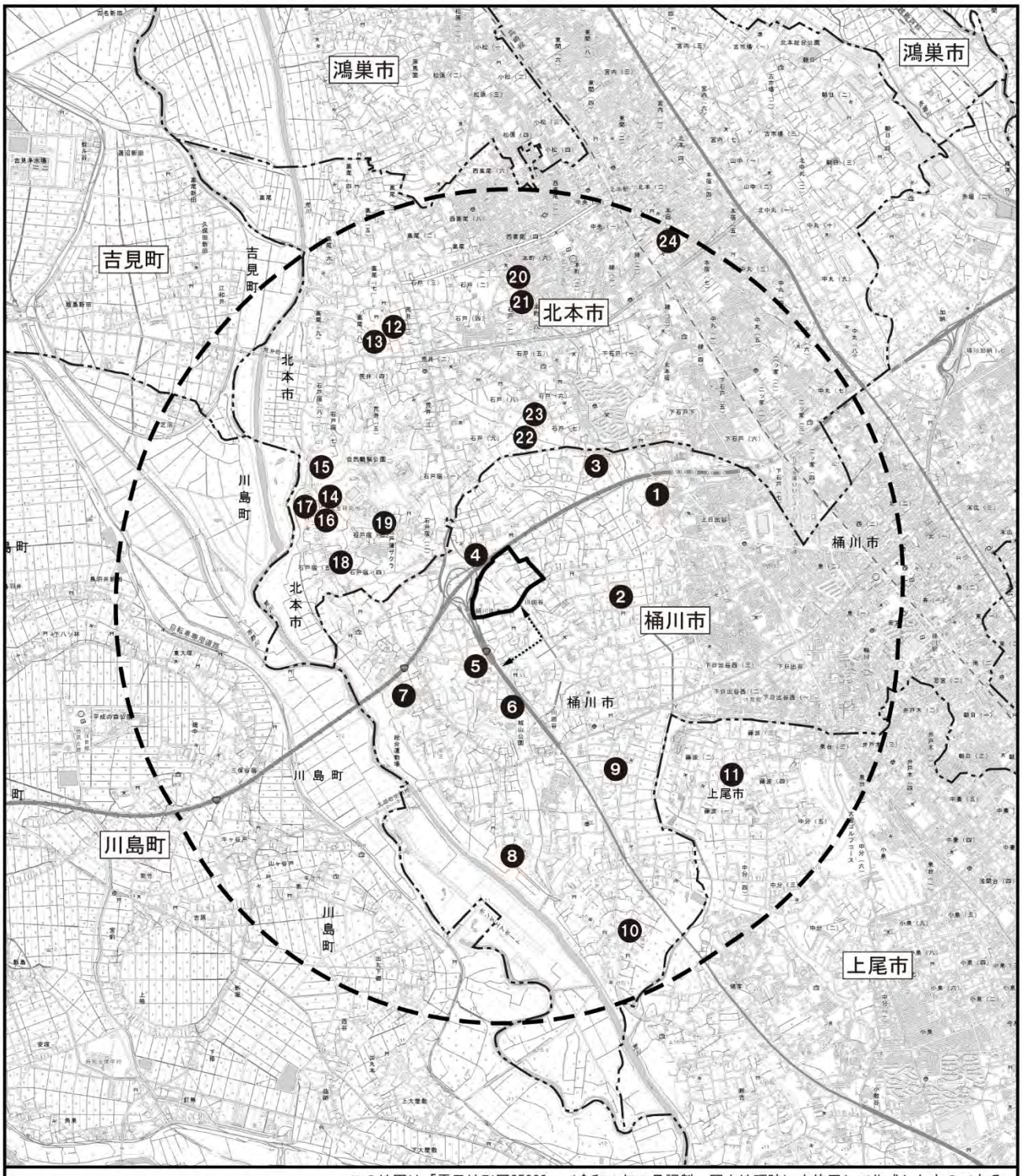
計画地及び周辺における巨樹・巨木林の分布状況は表 3.2-37 及び図 3.2-11 に示すとおりである。

計画地に近接している巨樹としては、圏央道を挟んで北側に樹高 20m のケヤキが生育している。なお、計画地及び周辺に巨木林は無い。

表 3.2-37　計画地及び周辺の巨樹の状況

番号	所在地		樹種	幹周（cm）	樹高（m）
1	桶川市	上日出谷	ケヤキ	480	25
2		上日出谷	ケヤキ	380	20
3		川田谷	ケヤキ	360	15
4		川田谷	ケヤキ	430	20
5		川田谷	ケヤキ	350	15
6		川田谷	ムクノキ	318	13
7		川田谷	ケヤキ	390	30
8		川田谷	ケヤキ	350	20
9		川田谷	ケヤキ	390	20
10		川田谷	ケヤキ	430	20
11	上尾市	藤波	モミ	330	25
12	北本市	高尾	ケヤキ	442	30
13		高尾	ケヤキ	346	30
14		石戸谷	ケヤキ	355	30
15		石戸谷	ケヤキ	352	25
16		石戸谷	ムクノキ	394	20
17		石戸谷	ムクノキ	370	20
18		石戸谷	ケヤキ	333	25
19		石戸谷	カバザクラ	340	15
20		本町	クスノキ	477	30
21		本町	イチョウ	399	20
22		下石戸上	ケヤキ	343	25
23		下石戸上	ケヤキ	357	25
24		本宿	ムクロジ	420	12

注）第6回自然環境保全基礎調査で枯死が判明した巨木は除外した。
資料：「自然環境調査Web-GIS　第4回・第6回自然環境保全基礎調査　日本の巨樹・巨木林」（令和8年2月閲覧、環境省自然環境局生物多様性センターホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- ● 巨樹

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

図 3.2-11　巨樹・巨木林の分布状況

3) 生態系

計画地は平坦な地形で、主に畑や果樹園、水田からなる農地と一部の集落や工場で構成されており、北側には圏央道、西側には上尾道路が通過している。計画地内から南東方向には石川川が流れている。計画地周辺も畑を中心に同様の土地利用となっている。

① 上位性

哺乳類のホンドギツネ、大型鳥類のオオタカ、サギ類、カラス類、爬虫類のシマヘビ、アオダイショウ等が計画地における上位種として分布している可能性がある。

② 典型性

計画地を代表する環境は畑（一部水田もある）であり、生態系の典型性としては、ミミズ類、クモ類、ムカデ類、昆虫類等の畑雑草群落に生息する土壌動物と、それらを採餌する小型鳥類等の小動物、水路に生息するカエル類等が考えられる。

③ 特殊性

計画地において特殊な自然環境は見当たらないが、土壌動物や水生生物の中に注目すべき種が分布している可能性があり、種によっては特殊性の面からの配慮が考えられる。

(6) 景観、自然とのふれあいの場の状況

1) 景観

① 地域景観の状況

計画地が位置する桶川市は、埼玉県東部に広がる大宮台地北部の一角を占め、市域の東側には元荒川、西側には荒川が流れており、豊かな自然環境を保っている。

計画地及び周辺の地形はおおむね平坦であり、主として畑や水田が広がっており、集落や樹林が点在している。計画地の北側には圏央道が、西側には上尾道路が隣接している。また、計画地の南側には城山公園や石川川の河津桜、北側には城ヶ谷堤や北本自然観察公園を中心とする緑地が存在する。

このように計画地及び周辺の景観は、農地や緑地、河川等の自然的要素と、高規格道路の構造物や集落といった人工的要素が混在している。

② 景観資源の状況

計画地及び周辺の景観資源の概要は表 3.2-38(1)～(2)、表 3.2-39 及び図 3.2-12 に示すとおりである。

計画地の最寄りの景観資源としては、計画地の南方約 1km に埼玉県の景観資源データベースシステムに登録されている「城山公園」や地元住民に親しまれている「石川川の河津桜」等がある。

表 3.2-38(1)　計画地及び周辺の景観資源

番号	区分	市町	名称	概要
1	公園・広場	桶川市	城山公園	公園（約 10.4ha）には小高い丘があり三ツ木城跡であったことから地名に城山の名が残っている。園内は、武蔵野の雑木林をイメージして植栽され、児童遊園広場やトリム広場や水遊びができるじゃぶじゃぶ池、ピクニック広場、多目的グラウンド、公園を一望できる展望台、バーベキュー広場などがあり、春には 200 本以上の桜が見られ、小さな子供から大人まで幅広い年齢層の憩いの場となっている。
2		北本市	北本市野外活動センター	起伏があり緑豊かな景観の中に立地する生涯学習施設。多目的ホール、体験学習室、キャンプ場、入浴施設等があり、様々な活動をすることができる。芝生広場や親水池を散策しながら、北本の自然を満喫することができる。
3			高尾さくら公園	全国から集められた 30 種・200 本の桜が植えられており、満開の時期には毎年たくさんの花見客が訪れる。また、毎年 4 月上旬には「さくらまつり」が開催され、地元の新鮮な野菜や特産品の出店などでとても賑わう。大宮台地の端に位置するこの公園からは、荒川河川敷から遠く秩父の山々、富士山までを広く眺めることができる。
4			北本水辺プラザ公園	かつて舟運で栄えた高尾河岸があった地に、荒川を見て聞いて感じられる場として整備された面積約 4ha の開放的な公園。園内には、広大な芝生広場、昔の荒川の流れを再現したせせらぎ水路などが整備され、ゆったりと水辺の空間を満喫できる。園路を行くと荒川を間近に見ることができ、豊かな川の流れに力強い川の音が加わり、ダイナミックな景観を体感できる。

表 3.2-38(2)　計画地及び周辺の景観資源

番号	区分	市町	名称	概要
5	建築物	桶川市	桶川飛行学校平和祈念館	昭和 12 年に建設された旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場の建物を復元整備し、当時の建物を活用した平和を発信するための施設として令和 2 年 8 月に開館した。守衛棟、車庫棟、兵舎棟、便所棟、弾薬庫の 5 棟が現存している。飛行学校の木造建築物が群として残っている全国でも希少な例である。
6		北本市	北本みなみ幼稚園	道路に面して広く前庭をとり、周辺環境に親しみ易さを与えている。低い木柵の塀越しに園内の緑や木々が望まれ、園児たちの活発な遊びの様子もうかがえる。緩やかに湾曲する園舎が奥に延び、円形の柔らかい屋根をもつ監理棟、マンサード屋根のポニーの小屋、黒い切妻屋根の記念室が適度の間隔で配置され、バラエティある景観がつくり出されている。
7		川島町	廣徳寺大御堂	13 世紀のはじめ、尼将軍北条政子が美尾谷十郎廣徳の菩提を弔うため、美尾谷氏の館跡に建立したものと伝えられている。建物はその後再興されたもので、室町時代の初期ないし中期頃といわれている。方三間の寄棟造、茅葺で関東地方らしい風格を帯びた堂姿を示す数少ない唐様仏堂である。
8			遠山記念館	川島町出身の遠山元一氏（日興證券の創始者）の邸宅で昭和 11 年の竣工。母屋は豪農風の東棟、18 畳大広間のある中棟、母親のために建てられた数寄屋造りの西棟からなり、最高級の材料と技術によって建てられている。建築当初の姿を良く保存しており、昭和初期の和風建築を代表する建造物である。
9	樹木	北本市	石戸蒲ザクラ	日本五大桜にも選ばれている北本市石戸の名木で、江戸時代に滝沢馬琴によって書かれた『玄同放言』には、渡辺崋山によるこの桜の挿絵がみられる。樹齢約 800 年といわれるこの桜は、毎年 4 月上旬に満開の花を咲かせる。名前の由来は、「蒲の冠者」と呼ばれた鎌倉時代の武将である源範頼が石戸宿に逃げ、隠れて生き延びたという伝説からとされており、桜の傍には源範頼のものとされる墓所が残っている。
10	並木	北本市	城ヶ谷堤	「桜土手」として親しまれている桜の名所。堤は荒川の氾濫による田畑への被害を防ぐために江戸時代初期に築かれたと考えられており、道の両側を彩る桜並木は戦後、石戸地区の住民によって植えられ大切に守られてきたもので、現在では保存会によって保全活動が行われている。
11	自然・緑地・農地等	北本市	北本中央緑地	JR 高崎線の両側をそれぞれ 20m の幅で、延長約 1.3km、面積 3.2ha を身近に親しめる緑地帯として北本市が保全整備している。JR 高崎線沿線では、唯一の雑木林であり、北本を象徴する緑地でもあり、市民の身近な散策の場として親しまれている。
12	その他	北本市	高尾宮岡の景観地	荒川の東側に位置し、大宮台地の浸食により形成された谷津（やつ）と、それを取り囲む斜面林からなる里山景観が残されている。2 か所から流れ出る湧水が環境に変化を持たせ、入り口付近の湿地には、希少種のミクリが見られる。自然環境や周囲の台地に広がる遺跡は貴重な財産になっている。

資料：「景観資源データベースシステム」（令和8年2月閲覧、埼玉県都市整備部都市計画課ホームページ）
「県内のトラスト保全地」、「緑のトラスト保全地」（令和8年2月閲覧、公益財団法人さいたま緑のトラスト協会ホームページ）

表 3.2-39　地元住民に親しまれている景観資源

番号	市町	名称	概要
13	桶川市	石川川の河津桜	桜スポット
14		普門寺のしだれ桜	市指定文化財（記念物（天然記念物））
15		諏訪神社	市指定文化財（建造物：本殿）
16		勢至堂	桜スポット
17		川田谷小学校周辺	桜スポット
18		べに花畑	べに花まつり会場
19		弥勒院	桜スポット
20		道の駅「べに花の郷おけがわ」	観光スポット
21		原山古墳群	市指定文化財（記念物（史跡））
22		泉福寺	市指定文化財（建造物：山門並びに石造仁王像、工芸品：銅製釣灯籠）
23		樋詰の道しるべ	市指定文化財（有形民俗）
24		熊野神社古墳一基	市指定文化財（記念物（史跡））
25		川田谷こどもの森	市民緑地

資料：地元住民からの情報

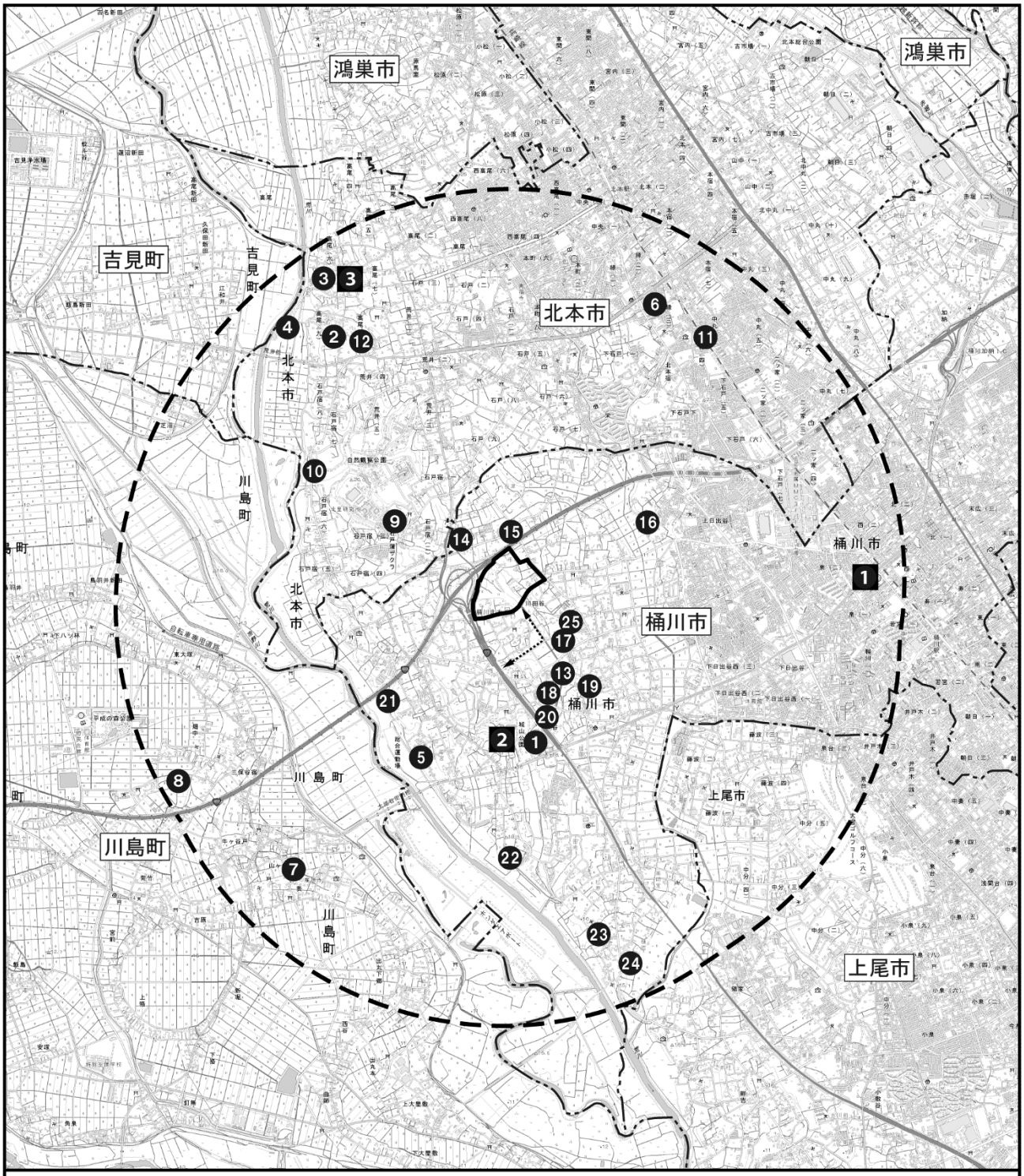
③ 主要眺望点の分布状況

計画地及び周辺を眺望する不特定多数の人に利用される地点は表 3.2-40 及び図 3.2-12 に示すとおりである。計画地及び周辺は、地表の起伏が少なくおおむね平坦であることから、自然の地形をいかした眺望点は少ない。

表 3.2-40　計画地及び周辺の主要眺望点

番号	市町	名称	概要
1	桶川市	桶川市役所 5 階眺望スペース	市役所から計画地側を眺めると、天気が良ければ秩父の山々や富士山が見える。
2		城山公園	公園を一望できる展望台がある。
3	北本市	高尾さくら公園	遠く秩父の山々、富士山までを広く眺めることができる。

注）桶川市役所5階眺望スペースについては、地元住民からの情報
資料：「景観資源データベースシステム」（令和8年2月閲覧、埼玉県都市整備部都市計画課ホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 景観資源
- 主要眺望点

図 3.2-12　景観資源及び主要眺望点の分布状況

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

2) 人と自然とのふれあいの場

計画地及び周辺における人と自然とのふれあいの場の分布状況は、表 3.2-41～表 3.2-44 及び図 3.2-13 に示すとおりである。

計画地周辺の人と自然とのふれあいの場としては、計画地の南側に「石川川の河津桜」、計画地の南東約 100m に「川田谷栗原市民緑地」、南東約 400m に「川田谷こどもの森」が存在する。また、計画地及び周辺には多くのウォーキングコースがあり、桶川市では、西側版 A コースと西側版 B コースが設定されている。

自然再生地・ビオトープとしては、桶川市と川島町にまたがって「荒川太郎右衛門地区自然再生地」、上尾市と桶川市にまたがって「江川サクラソウトラスト活動地」等がある。

表 3.2-41　計画地及び周辺の人と自然とのふれあいの場（公園等）

番号	市町	名称	概要
1	桶川市	城山公園	約 10.4ha あり、緑あふれる市内随一の都市公園（総合公園）であり展望台、アスレチック遊具、大池、花木園などがある。
2		富士見ホタル親水公園	荒川に近い石川川沿いの静謐な公園。
3		川田谷こどもの森	川田谷小学校の北側に所在する面積約 4,000 ㎡の雑木林。案内板や園路、ベンチなどを設置し、昔ながらの雑木林の風景を楽しめるよう配慮されている。
4		石川川の河津桜	石川川の両岸に、約 300 本の河津桜が植えられている。
5	上尾市	大宮ゴルフコース	昭和 34 年開場。コースは老赤松の大木にセパレートされたフラットなフェアウェイと、四季折々の彩りが散りばめられ春には桜が咲き誇る。
6	北本市	北本自然観察公園	埼玉県の「里地里山」の自然環境を残しながら、野生の生きものがくらしやすいよう、また来園される方が自然に親しめるように整えられた公園。
7		北本市子供公園	昭和 49 年 7 月、武蔵野に残された美しい谷津に広がる自然の中に整備。大小様々な遊具が設置され、天候のよい日にはたくさんの子ども達の笑顔で溢れる。
8		北本水辺プラザ公園	埼玉を代表する荒川に沿って作られた広々とした芝生広場に、舟運で栄えたかつての荒川の流れを模した旧流路体験水路のほか、トイレ・水飲み・駐車場が整備されている。
9		高尾さくら公園	広々とした芝生にソメイヨシノ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ等、全国から集められたおよそ 30 種・200 本の桜が植えられ、3 月下旬から 4 月上旬にかけて次々に満開の時期を迎える。また、4 月上旬に行われる「さくらまつり」には、多くの人でにぎわう。

資料：「主な公園と広場」（令和8年2月閲覧、桶川市都市整備部市街地整備課ホームページ）
「自然環境・エコロジー」（令和8年2月閲覧、桶川市環境経済部産業観光課ホームページ）
「市の紹介・観光」（令和8年2月閲覧、桶川市環境経済部環境対策推進課ホームページ）
「大宮ゴルフコース」（令和8年2月閲覧、大宮ゴルフコースホームページ）
「北本自然観察公園」（令和8年2月閲覧、埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園ホームページ）
「北本市子供公園」（令和8年2月閲覧、北本総合公園管理事務所ホームページ）
「公園・スポーツ広場」（令和8年2月閲覧、北本市都市整備部都市計画課ホームページ）

表 3.2-42　計画地及び周辺の人と自然とのふれあいの場（ウォーキングコース）

番号	市町	名称
1	桶川市	西側版 A コース
2		西側版 B コース
3	北本市	中丸コース
4		中央地域コース
5		公団地域コース
6		本町・西高尾コース
7		西部コース
8		野外活動センターから荒川河畔・鎌倉街道コース

資料：「おけがわ健康づくりウォーキングマップ」（令和8年2月閲覧、桶川市健康推進部健康増進課ホームページ）
「きたもと健康ウォーキングマップ」（平成27年3月、北本市）

表 3.2-43　計画地及び周辺の人と自然とのふれあいの場（市民緑地）

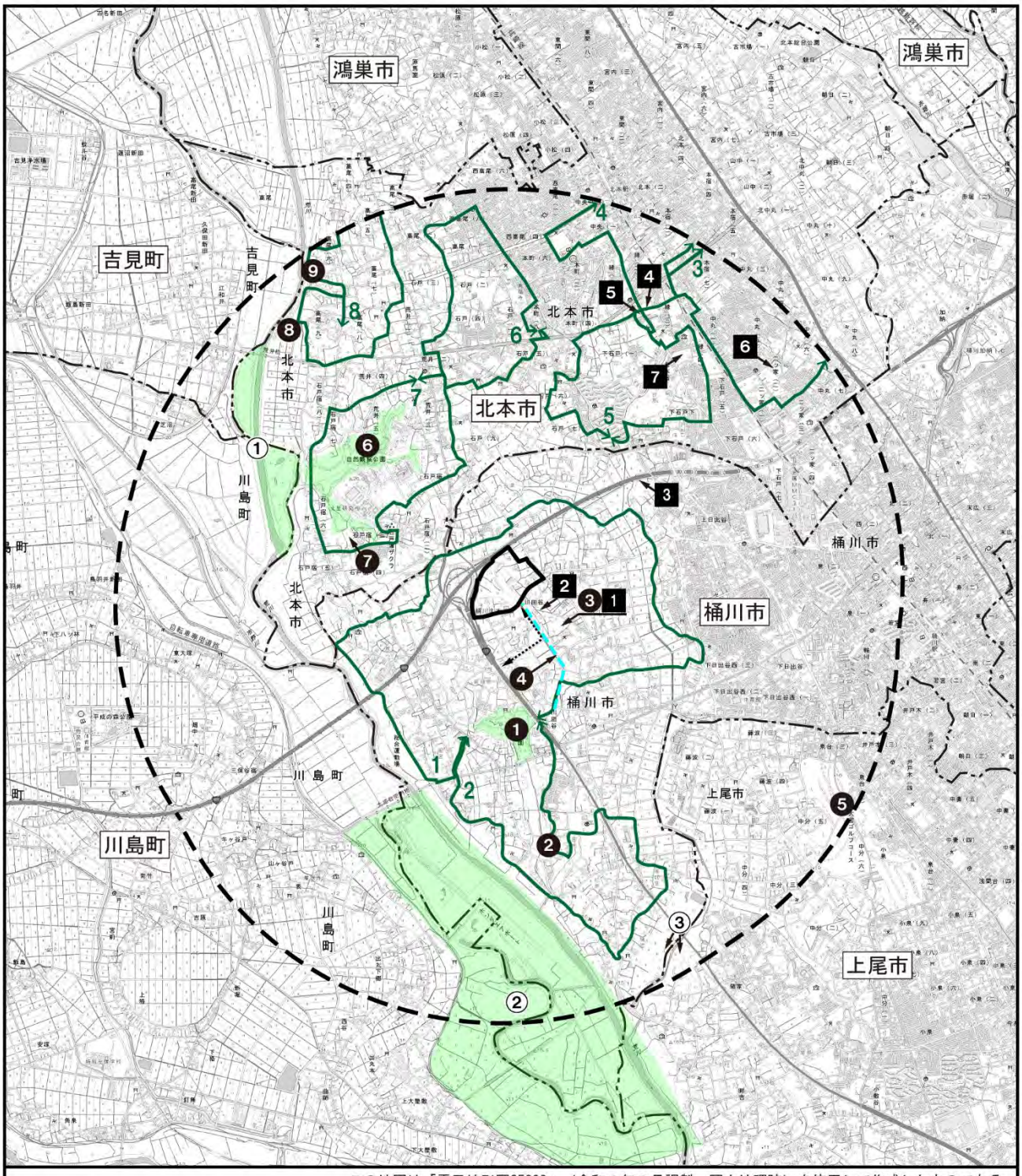
番号	市町	名称	面積（m^2）
1	桶川市	川田谷こどもの森	4,052
2		川田谷栗原市民緑地	1,347
3		上日出谷弥勒市民緑地	4,066
4	北本市	北本市民緑地（第 1 号）	2,095
5		北本市民緑地（第 2 号）	1,830
6		北本市民緑地（第 3 号）	6,712
7		北本市民緑地（第 4 号）	9,621

注）桶川市については、市民に開放されている市民緑地を示した。
資料：「市民緑地制度について」（令和8年2月閲覧、桶川市環境経済部環境対策推進課ホームページ）
「第二次桶川市緑のまちづくり基本計画」（令和7年3月、桶川市）
桶川市環境経済部環境対策推進課ヒアリング（令和4年8月）
「北本市緑の基本計画（改訂版）」（平成29年3月、北本市）
「都市緑化データベース・市民緑地（令和6年3月31日現在）」（令和8年2月閲覧、国土交通省都市局ホームページ）

表 3.2-44　計画地及び周辺の人と自然とのふれあいの場（自然再生地・ビオトープ等）

番号	市町	名称	概要
1	北本市、川島町	荒川ビオトープ	荒川を挟んで北本市と川島町の河川敷につくられている。「北本自然観察公園」とあわせて 60ha 以上の土地が確保されている。
2	桶川市、川島町	荒川太郎右衛門地区自然再生地	自然再生推進法(平成 14 年法律第 148 号)に基づく自然再生事業である。荒川水系荒川 50.4km から 54.0km 間右岸に存する荒川旧流路及び連担する地区である。
3	上尾市、桶川市	江川サクラソウトラスト活動地	平成２年に野生生物保護を目的とした市民による「サクラソウトラスト」が設立され、以来サクラソウ群落の生物多様性を目的とした保全活動を行っている。

資料：「荒川ビオトープ」（令和８年２月閲覧、荒川上流河川事務所ホームページ）
「荒川再生」（令和８年２月閲覧、日本河川・流域再生ネットワークホームページ）
「荒川太郎右衛門地区自然再生事業」（令和８年２月閲覧、荒川上流河川事務所ホームページ）
「特定非営利活動法人エンハンスネイチャー荒川・江川」（令和８年２月閲覧、特定非営利活動法人エンハンスネイチャー荒川・江川ホームページ）
「上尾道路（江川地区）における湿地保全計画」（上尾道路（江川地区）環境保全対策検討会議）（令和８年２月閲覧、大宮国道事務所ホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 自然とのふれあいの場
- 公園等
- 市民緑地
- 石川川の河津桜
- ウォーキングコース
- 公園、自然再生地等

図 3.2-13　人と自然とのふれあいの場の分布状況

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

(7) 文化財その他の生活環境の状況

1) 指定文化財

計画地及び周辺における指定文化財のうち、土地に定着している、もしくは土地と一体のものは、表 3.2-45 及び図 3.2-14 に示すとおりである。

計画地の最寄りの指定文化財としては、計画地の北側約 150m に桶川市指定の建造物である「諏訪神社本殿」が存在する。また、計画地の北西約 900m には、国指定天然記念物である「石戸蒲ザクラ」が存在する。

表 3.2-45　計画地及び周辺の指定文化財

【国指定】

番号	種別	名称	所在地
1	天然記念物	石戸蒲ザクラ	北本市石戸宿 3－119 東光寺
2	史跡	デーノタメ遺跡	北本市下石戸下字久保耕地 629－1 他
3	建造物	廣徳寺大御堂	川島町表 76
4	建造物	旧遠山家住宅 東棟	川島町白井沼 676
	建造物	旧遠山家住宅 中棟	川島町白井沼 677
	建造物	旧遠山家住宅 西棟	川島町白井沼 678
	建造物	旧遠山家住宅 土蔵	川島町白井沼 679
	建造物	旧遠山家住宅 茶室	川島町白井沼 680
	建造物	旧遠山家住宅 寄付待合	川島町白井沼 681
	建造物	旧遠山家住宅 長屋門	川島町白井沼 682
	建造物	旧遠山家住宅 庭門及び内塀	川島町白井沼 683
	建造物	旧遠山家住宅 裏門及び外塀	川島町白井沼 684

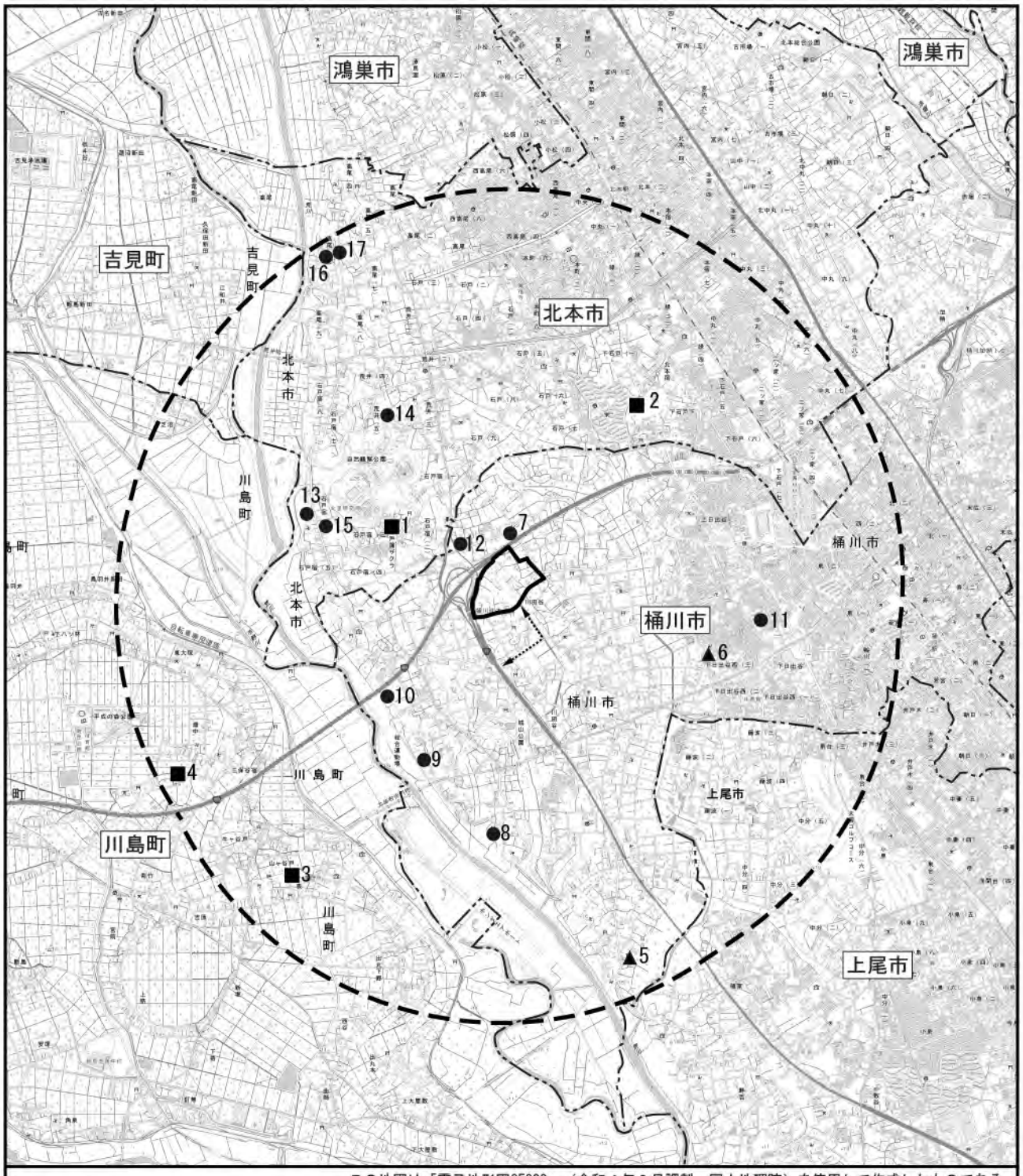
【県指定】

番号	種別	名称	所在地
5	史跡	熊野神社古墳一基	桶川市川田谷 347 ほか
6	旧跡	梵語学者盛典の墓	桶川市下日出谷西 3 丁目 知足院境内

【市指定】

番号	種別	名称	所在地
7	建造物	諏訪神社本殿	桶川市川田谷 6710-1 諏訪神社
8	建造物	泉福寺の山門並びに石像仁王像	桶川市川田谷 2012 泉福寺
9	建造物	旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物	桶川市川田谷 2235-16
10	史跡	原山古墳群	桶川市川田谷 7313-1 ほか
11	史跡	高井遺跡住居跡	桶川西小学校地内
12	天然記念物	普門寺のしだれ桜	桶川市川田谷 6663
13	天然記念物	ムク	北本市石戸宿 6-64 天神社
14	天然記念物	エドヒガンザクラ	北本市荒井 5-223
15	天然記念物	ドウダンツツジ	北本市石戸宿 6
16	天然記念物	阿弥陀堂エドヒガンザクラ	北本市高尾 6-365 阿弥陀堂墓地内
17	天然記念物	高尾カタクリ自生地	北本市高尾 6-320-1 ほか

資料：「桶川市の指定文化財一覧」（令和8年2月閲覧、桶川市教育委員会教育部文化財課ホームページ）
「北本の文化財」（令和8年2月閲覧、北本市教育委員会教育部文化財保護課ホームページ）
「川島町の文化財一覧」（令和8年2月閲覧、川島町教育委員会生涯学習課ホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 国指定文化財
- 県指定文化財
- 市指定文化財

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

図 3.2-14　指定文化財の分布状況

2) 埋蔵文化財

計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地は、表 3.2-46(1)～(5)及び図 3.2-15 に示すとおりである。計画地に係る埋蔵文化財包蔵地としては、計画地西側を含む「6 大平遺跡」及び計画地南側を含む「7（遺跡名なし)」、計画地北東側を含む「109 諏訪北Ⅰ遺跡」がある。また、「108 諏訪南遺跡」、「110 諏訪北Ⅱ遺跡」等が近接している。

表 3.2-46(1)　計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
1	桶川市	丸山遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
2		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・奈良・平安
3		諏訪野遺跡	集落跡	縄文・弥生
4		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳・平安
5		諏訪久保Ⅰ遺跡	集落跡	弥生
6		大平遺跡	集落跡	縄文・弥生
7		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳
8		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
9		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
10		山王遺跡	集落跡	縄文
11		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
12		（遺跡名なし）	集落跡	－
13		王子遺跡	集落跡	古墳
14		永久保Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・古墳
15		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安
16		永久保Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安
17		中台Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・古墳
18		中台Ⅰ遺跡	集落跡	平安
19		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安
20		（遺跡名なし）	集落跡	古墳
21		武城館跡	集落跡・城跡	縄文・鎌倉・南北朝・室町
22		（遺跡名なし）	集落跡	－
23		（遺跡名なし）	－	縄文・古墳
24		八幡原遺跡	方形周溝墓	古墳
25		東台Ⅰ遺跡	集落跡	古墳
26		台原遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安
27		北原遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
28		西台古墳群・ 西台遺跡	集落跡	縄文・古墳
29		前原遺跡	集落跡・古墳	縄文・弥生・古墳・奈良
30		若宮Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・古墳
31		若宮Ⅱ遺跡、 ひさご塚古墳他	集落跡・古墳	縄文・弥生・古墳
32		三ツ木遺跡	集落跡・城跡	縄文・古墳・鎌倉・南北朝・室町
33		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳
34		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳
35		（遺跡名なし）	集落跡・古墳	古墳
36		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳
37		氷川前遺跡	集落跡	古墳
38		泉野遺跡	集落跡	縄文・古墳
39		稲荷Ⅰ遺跡	集落跡・古墳	縄文・古墳
40		川田谷狐塚遺跡	集落跡	旧石器・縄文・古墳
41		（遺跡名なし）	集落跡・墓	縄文・古墳・室町
42		八幡耕地遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
43		宮前Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳

表 3.2-46(2)　計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
44		宮前Ⅱ遺跡	集落跡・古墳群	縄文・弥生・古墳
45		熊野神社古墳	古墳	古墳
46		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳
47		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
48		（遺跡名なし）	集落跡・古墳	縄文・弥生・古墳
49		楽中遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
50		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・弥生・古墳
51		薬師堂遺跡	集落跡	旧石器・縄文・弥生・古墳
52		小在家Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
53		小在家Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・古墳
54		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・弥生・古墳
55		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
56		楽上遺跡	集落跡	旧石器・縄文・弥生・古墳
57		楽上Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
58		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・弥生
59		砂ケ谷戸Ⅱ遺跡	集落跡	弥生・古墳
60		砂ケ谷戸Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
61		（遺跡名なし）	集落跡	古墳
62		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
63		堂坂遺跡	集落跡	縄文
64		（遺跡名なし）	集落跡	古墳
65		（遺跡名なし）	集落跡・古墳・石造遺物	縄文・古墳
66		栗原古墳	古墳	古墳
67		殿山北遺跡	集落跡	縄文・弥生
68		殿山南遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
69	桶川市	殿山西遺跡	集落跡	弥生・古墳・平安
70		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
71		弥勒遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・平安
72		愛宕西遺跡	集落跡	旧石器・縄文・弥生
73		愛宕東遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
74		宮北Ⅰ遺跡	集落跡	縄文
75		宮北Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・弥生
76		愛宕遺跡	集落跡	縄文・古墳
77		愛宕耕地遺跡	－	縄文・古墳
78		宮遺跡	集落跡	縄文・古墳・平安
79		氷川神社裏古墳	古墳	古墳
80		（遺跡名なし）	集落跡	古墳
81		原新田遺跡	集落跡	縄文
82		高山遺跡	集落跡	旧石器・縄文
83		高井遺跡	集落跡	縄文・古墳
84		高井東遺跡	集落跡	旧石器・縄文
85		高井泥炭層遺跡	集落跡	縄文
86		高井南遺跡	集落跡	縄文
87		東Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・弥生
88		（遺跡名なし）	集落跡	縄文
89		東Ⅲ遺跡	集落跡	縄文
90		東Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ遺跡	集落跡	縄文
91		東Ⅷ遺跡	集落跡	縄文・古墳
92		東Ⅳ遺跡	集落跡	縄文
93		東ⅩⅠ遺跡	集落跡	縄文
94		東ⅩⅡ遺跡	集落跡	縄文・古墳
95		東ⅩⅢ遺跡	集落跡	縄文・弥生
96		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳

表 3.2-46(3)　計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
97	桶川市	西Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
98		西Ⅱ・Ⅲ遺跡	集落跡	縄文
99		西Ⅳ遺跡	集落跡	縄文
100		西Ⅴ・Ⅵ遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
101		西Ⅶ遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳
102		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・奈良・平安
103		（遺跡名なし）	集落跡	古墳・平安
104		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・古墳
105		（遺跡名なし）	集落跡	縄文・弥生・古墳
106		提灯木山遺跡	集落跡・塚	縄文
107		大沼遺跡	集落跡	縄文
108		諏訪南遺跡	集落跡	縄文
109		諏訪北Ⅰ遺跡	集落跡	古墳
110		諏訪北Ⅱ遺跡	集落跡・寺院跡・城跡	平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国・江戸
111		前領家遺跡	集落跡	縄文・平安
112		窪遺跡	集落跡	縄文・古墳・室町・戦国・江戸
113	上尾市	塩谷Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・古墳
114		後山遺跡	集落跡	縄文
115		天神遺跡	集落跡	古墳
116		天神Ⅰ遺跡	集落跡	縄文
117		糀谷Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・古墳
118		藤波在家遺跡	集落跡	縄文
119		藤波在家Ⅰ遺跡	集落跡	縄文
120		天神Ⅱ遺跡	集落跡	縄文
121		小谷津Ⅰ遺跡	集落跡	縄文
122		袋Ⅰ	集落跡	縄文・古墳
123		冠遺跡	集落跡	縄文
124		小谷津遺跡	集落跡	縄文・古墳
125		藤波天神前遺跡	集落跡	縄文
126		藤波天神前Ⅰ遺跡	集落跡	縄文・江戸
127		藤波天神前Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・古墳・鎌倉・南北朝・室町・戦国
128		糀谷遺跡	集落跡	縄文・古墳
129		泉台三丁目遺跡	集落跡	縄文・古墳・江戸
130		井戸木三丁目遺跡	集落跡	縄文・鎌倉・南北朝・室町・戦国・江戸
131		井戸木二丁目遺跡	集落跡	古墳
132	北本市	中井遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸
133		丸山遺跡	集落跡	縄文・古墳
134		高尾遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
135		宮岡遺跡	旧石器・集落跡	奈良・平安・室町・戦国・江戸
136		雷電遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
137		宮岡氷川神社前遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
138		馬場遺跡	集落跡	縄文
139		城中遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
140		問屋坂遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
141		市場遺跡	集落跡	縄文・古墳・室町・戦国・江戸
142		横田市場遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
143		八重塚遺跡	集落跡	縄文
144		八重塚古墳群	古墳群・古墳	古墳
145		堀ノ内館跡	城跡	平安
146		石戸城跡	城跡	室町
147		松原坂遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸
148		元屋敷遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸

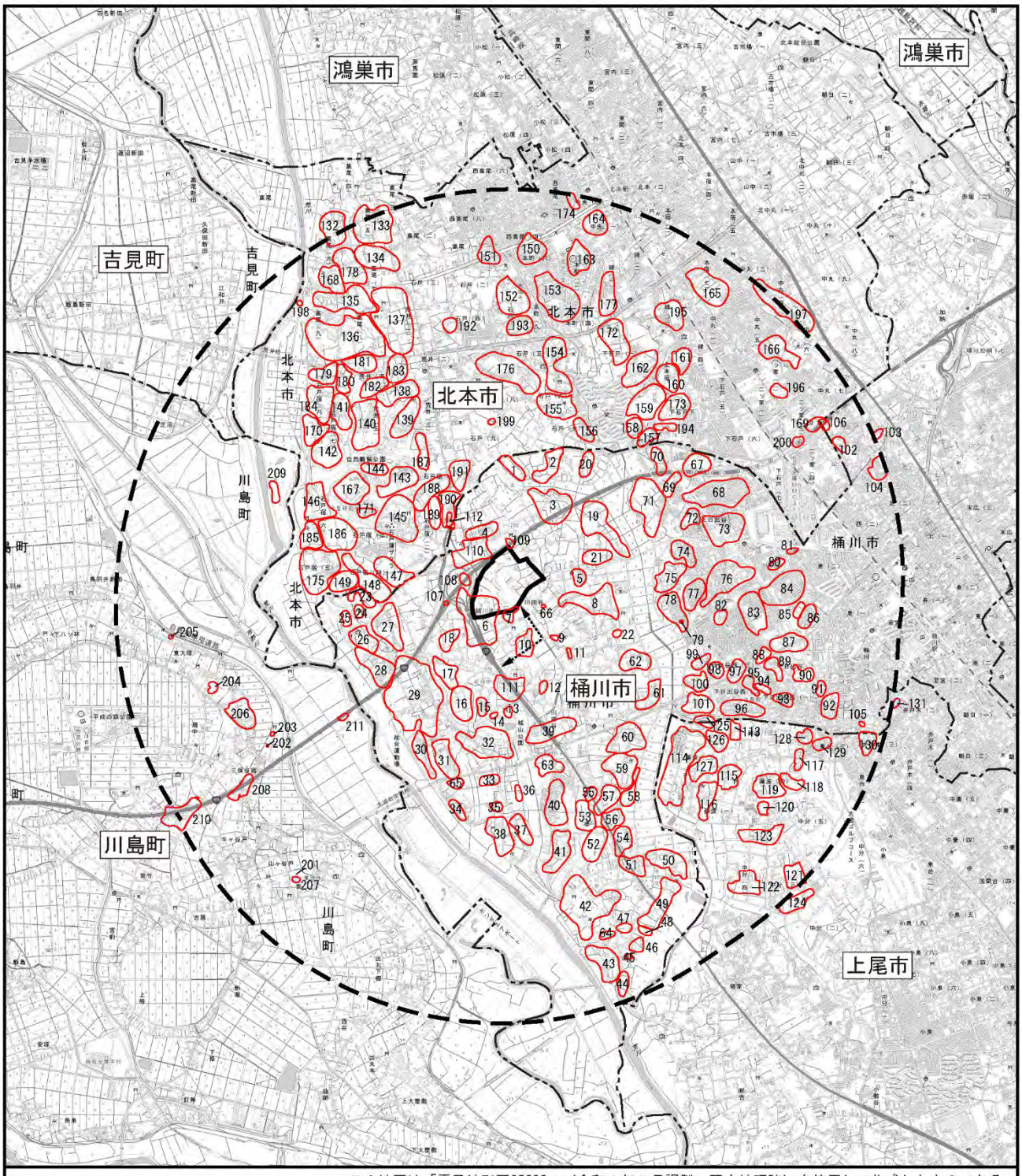
表 3.2-46(4)　計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
149	北本市	庚塚遺跡	集落跡	古墳
150		東谷足遺跡	集落跡	縄文
151		讃岐谷遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
152		両大師北遺跡	集落跡	旧石器・奈良・平安
153		勝林遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
154		氷川神社北遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
155		刑部谷遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
156		向郷遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
157		久保新田遺跡	旧石器・集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
158		榎戸遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
159		デーノタメ遺跡	集落跡	縄文
160		久保北遺跡	集落跡	縄文
161		考戸遺跡	集落跡・散布地	縄文
162		西後遺跡	集落跡	縄文
163		三五郎山遺跡	集落跡	縄文
164		七ツ島遺跡	集落跡	縄文
165		下原遺跡	集落跡	縄文
166		谷尻原遺跡	集落跡	縄文
167		諏訪山北遺跡	集落跡	弥生・古墳
168		阿弥陀堂遺跡	集落跡・古墳群	縄文・古墳・奈良
169		提灯木山遺跡	集落跡	旧石器・縄文
170		代官袋遺跡	集落跡	縄文
171		諏訪山南遺跡	－	－
172		台原遺跡	集落跡	縄文
173		久保遺跡	集落跡	縄文・古墳
174		上原遺跡	集落跡	縄文
175		下宿遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
176		月夜遺跡	集落跡	奈良・平安・江戸
177		エイリンジ遺跡	集落跡	旧石器・縄文
178		八幡遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸
179		カザラ遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸
180		NO.78 遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安・江戸
181		荒久保遺跡	集落跡	奈良・平安・室町・戦国・江戸
182		No.80 遺跡	集落跡	室町・戦国・江戸
183		No.81 遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
184		No.82 遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸
185		上宿遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・室町・戦国・江戸
186		お茶屋遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安
187		NO.85 遺跡	集落跡	縄文
188		NO.86 遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・江戸
189		NO.87 遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・室町・戦国
190		窪遺跡	集落跡	縄文・古墳・室町・戦国・江戸
191		NO.89 遺跡	集落跡	室町・戦国・江戸
192		NO.90 遺跡	集落跡	縄文
193		NO.91 遺跡	集落跡	縄文・古墳
194		久保耕地遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安
195		NO.93 遺跡	集落跡	縄文・室町・戦国・江戸
196		NO.94 遺跡	集落跡	縄文・江戸
197		NO.95 遺跡	集落跡	縄文・古墳・室町・戦国・江戸
198		下沼遺跡	その他	縄文
199		おきょう塚遺跡	経塚	江戸
200	北本市	二ツ家下遺跡	集落跡	縄文・江戸

表 3.2-46(5)　計画地及び周辺の埋蔵文化財包蔵地

番号	市町	遺跡名	種別	時代
201	川島町	広徳寺古墳	古墳	古墳
202		愛宕塚	古墳	古墳
203		富士浅間塚	古墳	古墳
204		村並遺跡	集落跡	古墳
205		大塚古墳	古墳	古墳
206		尾崎遺跡	集落跡	古墳
207		美尾屋十郎広徳館	城跡	鎌倉
208		元宿遺跡	集落跡	古墳・奈良・平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国・江戸
209		芝沼堤外遺跡	－	－
210		富田後遺跡	集落跡	古墳
211		東野遺跡	集落跡	縄文

資料：「埼玉県埋蔵文化財情報公開ページ」（令和8年2月閲覧、埼玉県教育委員会教育局教育総務部文化財・博物館課ホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- 埋蔵文化財包蔵地

図 3.2-15　埋蔵文化財包蔵地の分布状況

1：50，000
0　500　1000　1500m

N

(8) 一般環境中の放射性物質に係る環境の状況

1) 空間放射線量の状況

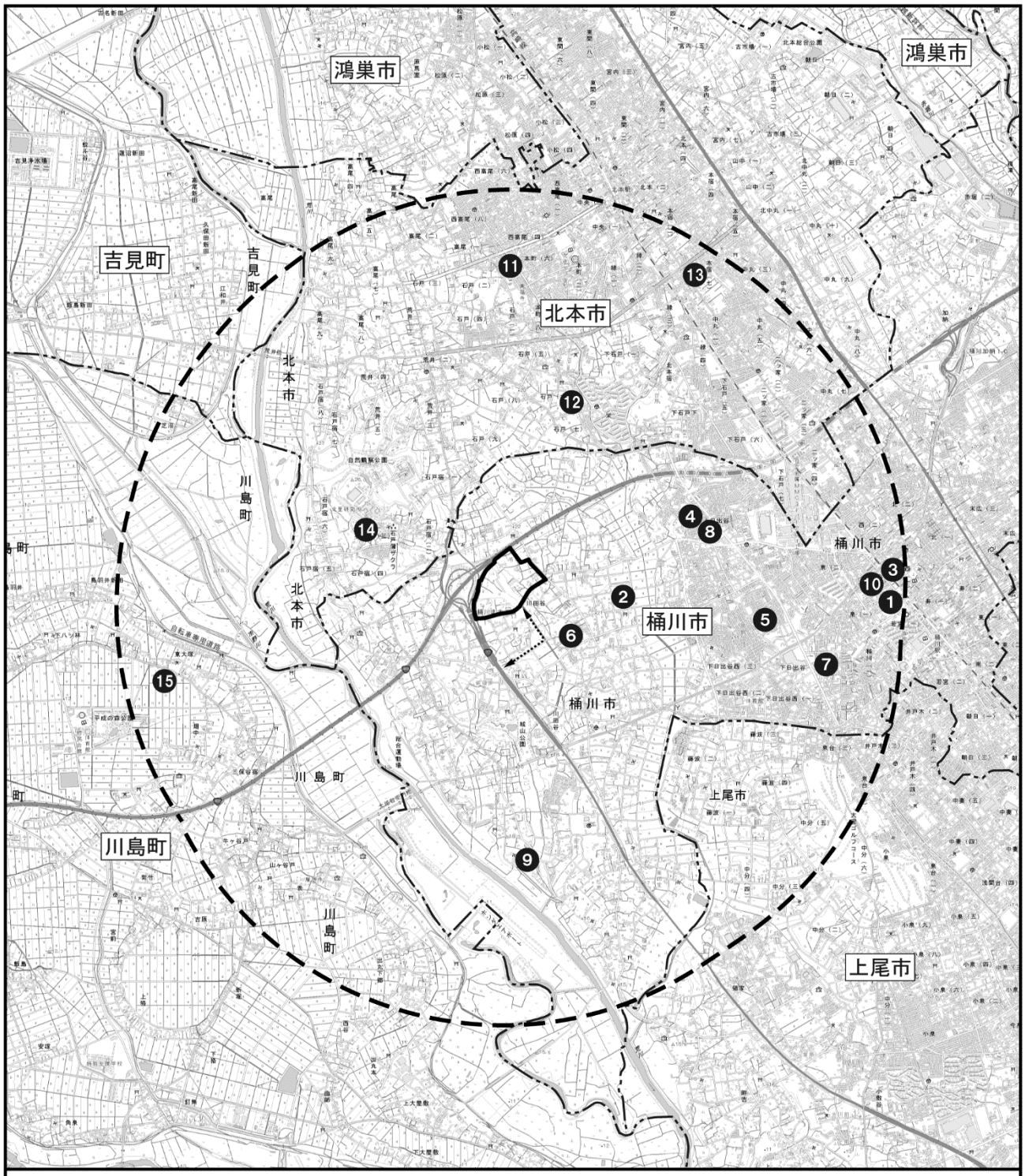
計画地及び周辺における放射線量の測定結果は表 3.2-47 に、測定位置は図 3.2-16 に示すとおりである。

計画地及び周辺における空間放射線量は、0.030～0.11μSv/h である（環境省が示す基準値：0.23μSv/h）。なお、北本市では、東日本大震災後 9 年間、自然界に存在する 0.04μSv/h 前後で推移している等の理由で、令和 3 年 2 月の公表をもって定期的な定点測定を中止している。また、川島町では、測定値が基準値を下回ったため、平成 26 年度で定期的な測定を終了している。

表 3.2-47　計画地及び周辺における空間放射線量測定結果

番号	市町	測定地点	年間換算値 (mSv/年)	測定結果 (μSv/h)	測定日	測定位置
1	桶川市	桶川中学校	0.170	0.032	令和 7年 5月16日	地表100cm
2		桶川西中学校	0.180	0.034		地表100cm
3		桶川小学校	0.180	0.034		地表 50cm
4		日出谷小学校	0.160	0.030		地表 50cm
5		桶川西小学校	0.200	0.039		地表 50cm
6		川田谷小学校	0.220	0.042		地表 50cm
7		鴨川保育所	0.190	0.036		地表 50cm
8		日出谷保育所	0.190	0.036		地表 50cm
9		いずみの学園	0.190	0.036		地表 50cm
10		桶川市役所	0.170	0.033		地表 50cm
11	北本市	西小学校	0.32	0.06	令和 3年 2月15日	地表100cm
12		栄保育所	0.26	0.05		地表100cm
13		東保育所	0.32	0.06		地表100cm
14		子供公園	0.26	0.05		地表100cm
15	川島町	川島幼稚園	0.58	0.11	平成27年 1月 8日	地表 50cm

注1）北本市は令和3年2月の公表をもって定期的な定点観測を中止している。
注2）川島町は平成27年1月の公表をもって定期的な定点観測を終了している。
資料：「桶川市内の放射線の測定結果について」（令和8年2月閲覧、桶川市環境経済部環境対策推進課ホームページ）
「北本市内での大気中の放射線量の測定結果」（令和8年2月閲覧、北本市市民経済部環境課ホームページ）
「川島町内の大気中の放射線量の測定結果と今後の方針について」（令和8年2月閲覧、川島町総務課ホームページ）



この地図は「電子地形図25000」（令和４年２月調製、国土地理院）を使用して作成したものである。

凡　例

- 計画地
- アクセス道路
- 市町界
- 計画地及びアクセス道路の境界から3km
- ● 空間放射線量測定地点

図 3.2-16　空間放射線量測定地点

1：50，000
0　500　1000　1500m

N